

〔資料〕

妙高山靈光寺所蔵『妙極堂遺稿』翻刻と解題(6)

寺津 麻理絵・関口 静雄

〔解題 6〕『妙極堂遺稿』収録の寺記・縁起類について

『妙極堂遺稿』七卷七冊に収録された寺記・縁起類の中で最も製作年代が早いのは「一乗山瀧谷寺縁記」(巻二収録)で、それは寛彦浄嚴が十九歳のときの明暦三年(一六五七)に、越前栖原里の中村長兵衛の再三の依頼を受けて草した、聖徳太子・明恵高弁上人ゆかりの越前国一乗谷瀧谷寺の縁起である。同年は郷里の河内国鬼住村から高野山の衆に加わり学侶に交を結んだ年である。

年若い僧に、それも近郷からではなく遠い越前からの依頼であることから、このころすでに浄嚴の文才が広く知られていたことは勿論、『遺稿』には収録されていないが、この時点で浄嚴は相当数の縁起類を求めに応じて作成していたはずで、それは寺院の正縁起たる、格を備えたものであったことが高い評価を得ていたと推量される。

瀧谷寺をめぐる『遺稿』巻七の貞享二年(一六八五)条に「和_{ニシテ}越之前州瀧谷寺ノ慶範師ノ韻_ヲ兼_テ餞_ニ別_ニ北越_ノ之_ニ帰_ニ三月初八」とあり、浄嚴門下であった春深慶範が越前に帰るときに餞別として詠んだ詩文が収録されていることから、「一乗山瀧谷寺縁記」を贈ったことをきっかけとして、以降も瀧谷寺との浅からぬ交流が続いていたようである。慶範(一六三五―一六九九)は元禄三年(一六九〇)四月六日、靈雲寺道場において浄嚴より安流の許可を受け、後に柳沢吉保の外護を受けて柳沢公の邸宅裏に智宝庵

福勝院を構え、徳川五代將軍徳川綱吉に謁見して祈禱を勤修するなど、浄嚴門下では慧光と比肩する実力者であり、瀧谷寺十八世や京都智積院の長老を務めた人である。

また、巻四の寛文四年(一六六四)条に収録される「高台山楞嚴寺記」は、奈良時代に白山を開き、「越の大徳」と称された泰澄が養老元年(七一七)に開山した楞嚴寺の縁起である。同寺は室町戦国時代に足利尊氏や朝倉家の祈願所となったことにより整備が整い、配下十七坊と末寺三十六カ寺百二十坊を擁する一大寺院となったが、天正のころ織田信長の討伐により伽藍宝仏類は悉く灰塵に帰した。江戸時代には福井藩主や粕氏の帰依を受けたが、明治から昭和の初めにかけては無住になるなど、かつての繁栄は戻ることなく現在に至っている。

この「高台山楞嚴寺記」の末文には「年移_リ星回_テ造営不_レ畢_ハ口惜_ニ王侯_ノ不_レ遊_又憤_ニ勝域_ノ之_ニ無_レ記_故書_ニ其_ノ慨_ヲ以_テ貽_ニ同志_ニ云_ニ」とあるように、勝場の古刹である楞嚴寺に縁起が無いことを憤って寺記を草したのであるが、浄嚴が寺記・縁起類をいかに重要視していたかを窺い知ることができる。このような一文は、巻六収録の「牛尾山法嚴寺実録」の末文に「予_ニ恐_ニ後世失_ニ其_ノ故_ニ書_ニ」とあり、また同巻「撰州尊鉢里多羅山若王寺縁起」に「今_ニ歎_ニ旧籍_之遭_ニ兵燹_ニ且_ク録_ニ先志_ノ之所_ニ曾_テ傳_ヘ」とあるなど随所に見られるのだが、これはひとえに寺社の縁起類が失われることを危惧し、たとえ一紙一行でも後世に遺そうという、行く末を案じ

での行動であり、楞嚴寺の盛衰を思えば、浄嚴の慧眼と短時日にして縁起を草することのできた学識の高さが知られるのである。

巻七の天和二年（一六八二）条に収録される「播州印南郡平庄報恩寺之記」の印南山報恩寺は、浄嚴の甥で高弟の惟宝蓮体撰『浄嚴大和尚行状記』によれば、南都西大寺末の律院であったが、叡尊の遺風虚しく「近代其風荒廃シテ律儀ヲ知ル者ナシ」と伝えるような悲惨な状態であった。浄嚴は寺僧に勧めて菩薩戒を授け、酒肉五辛門に入るべからずの標を立てるなどして整備を進め再興を果たしたのである。延宝五年（一六七七）にはここで普門品を講じ、日に五、六万人の善男善女たちが集ったと伝えられている。「報恩寺之記」はそうした報恩寺の再興活動の一環として記されたと考えられる。

巻六の延宝六年（一六七八）条に収録される「泉州補陀落山ノ記」は、その添文によれば、讃州善通寺誕生院主宥謙の招きに応じた浄嚴が自坊の河内薬樹山延命寺を発ち、同年三月二十八日、途中の大阪の旅館で草したもので、行基菩薩や弘法大師ゆかりの泉州大鳥郡和田谷の補陀落山放光寺にみずから足を運んで見聞した縁起や寺域、子院旧跡などが記されている。浄嚴の足音や息遣いが生々しく感じられ、旅先・訪問先でも体を休めることなく寸暇を惜しみ、机に向かい筆をとる一人の僧の姿がそこにあり、そしてそれが浄嚴の日常であったのだと察せられる。記録の後半では、浄嚴がかねてより菩薩戒の苾芻儀然大徳が継興した放光寺の近隣に住まう田夫野童が誦経し、農翁織婦が称名を常としてることを耳にしてはいたものの、実際にその様子を目の当たりにし、孔子の「君子居之、何陋之有」（君子これに居らば、何の陋しきことやらん）の一文を引用し、優れた師がいればおのずと周りもよくなるものだと痛感し、みずからの愚陋を恥じた」と記している。すでに徳風を認められ、各地を飛び回り教化活動をおこなっていた浄嚴に強い衝撃を与えたであろうこの逸事は、このころ宗派を超えて日本仏教界を席卷した近世戒律復興運動への決意を新たにさせたに相違

なく、後に、自らが提唱した如法真言律の道場となる江戸宝林山靈雲寺の創建へと繋がって行くのである。

なお、巻六の天和元年（一六八一）の条に収録の「讃州多度郡漫茶羅寺記」は同寺の現住宥盛阿闍梨の求めに応じて草されたもので、「香川叢書」（第一集）に全文の翻刻と概要が載っている。それによれば現在も卷子装に整えられて同寺に伝えられているが、原文は無点のようである。

こうした縁起類の作成にあたっては、いくばくかの謝礼が発生したと想像されるが、浄嚴の性質と行実を想えば、過分の謝礼は固辞したはずで、仮に受けたとしても、それは料紙代等の実費であつたらう。そのことは、蓮体が『行状記』の末尾に付した「浄嚴大和尚靈徳記」や「平生雅訓十七条」などに記しているように、授戒や真言印契、血脈を授ける際には一粒半銭の報施といえども受け取らなかつたこと、両界曼荼羅などの仏版を印施したときには、受者は紙墨の実費のみの支払いとしていたのであり、金銭よりはむしろ日課真言の契約や持律持戒を固く誓約させるなどに重きを置いていたのである。

◇『妙極堂遺稿』七巻七冊収録「寺記・縁起類一覽」

01 明曆三年（一六五七・十九歳）「一乗山瀧谷寺縁起」（巻二）

是歳。越前栖原里の中村長兵衛の再三の懇懇によって聖徳太子・明恵高弁上人ゆかりの越前一乗谷瀧谷寺の縁起を草す。

02 明曆三年（一六五七・十九歳）「金剛山記」（巻二）

是歳。河内金剛山の縁起梗概を草し、末尾に詩一篇を付す。

03 寛文四年（一六六四・二十六歳）「内州錦県河合寺縁起」（巻四）

是歳。河内河合寺縁起を草す。

04 寛文四年（一六六四・二十六歳）「相州藤沢郷海見山草海寺観正院略記即席」

（巻四）

三月。相州藤沢観正院略記を創建者松下八太夫源正直の求めに応じて

即席に草す。

05寛文四年（一六六四・二六六歳）「高台山楞嚴寺記」（巻四）

是歳。縁起無きを憤り、越前高台山楞嚴寺記を草し、後世の同志に貽さんとす。

06寛文九年（一六六九・三十一歳）「但州美含郡竹野郷荆木山縁起」（巻五）

三月上旬。但州竹野の荆木山縁起を草す。

07寛文十年（一六七〇・三十二歳）「補陀落山祇園寺縁起」（巻五）

六月二十七日。南山寓住の沙門澹然に代って、備中の祇園寺縁起を草す。

08寛文十一年（一六七一・三十三歳）「和州葛上郡千光山慈眼寺之記」（巻五）

是歳。和州慈眼寺之記を草す。

09寛文十三年（一六七三・三十五歳）「牛尾山法嚴寺実録」（巻六）

是歳。京都牛尾山法嚴寺実録および同寺興建幹縁疏を草す。

10寛文十三年（一六七三・三十五歳）「阿州勝浦郡靈鷲山ノ記」（巻六）

是歳。阿州勝浦郡靈鷲山鶴林寺の縁起を草す。

11寛文十三年（一六七三・三十五歳）「聖尊感心」（巻六）

是歳。阿州勝浦郡靈鷲山鶴林寺の地藏菩薩の靈験を記す。

12延宝元年（一六七三・三十五歳）「播之美葱郡吉川谷吉祥寺記」（巻六）

是歳。播州法花山吉祥寺記を草す。

13延宝六年（一六七八・四十歳）「泉州補陀落山ノ記（竪百五十歩横百八十余歩）三月二十八日於大坂旅館作」（巻六）

六）

三月二十八日。讃州への旅中、大坂の旅館で泉州大鳥郡和田谷の補陀落山放光寺記を草す。

14延宝六年（一六七八・四十歳）「播陽金藏寺ノ記」（巻六）

是歳。播州多可郡松井荘の帰見山金藏寺記を草す。

15天和元年（一六八一・四十三歳）「讃州多度郡漫茶羅寺記」（巻六）

六月。讃州多度郡漫茶羅寺の現住宥盛阿遮梨の求めに応じて寺記一卷

を草す。

16天和元年（一六八一・四十三歳）「撰州尊鉢里多羅山若王寺縁起」（巻六）

十月。撰州尊鉢里の多羅山若王寺縁起を草す。

17天和二年（一六八二・四十四歳）「播州印南郡平ノ庄報恩寺ノ記」（巻六）

十二月。播州報恩寺之記を草す。

18貞享元年（一六八四・四十六歳）「和州添下郡般若窟之記（応宝山湛海師之求也）」（巻七）

是歳。生駒宝山寺湛海の需めに応じ、般若窟之記を草す。

（寺津麻理絵）

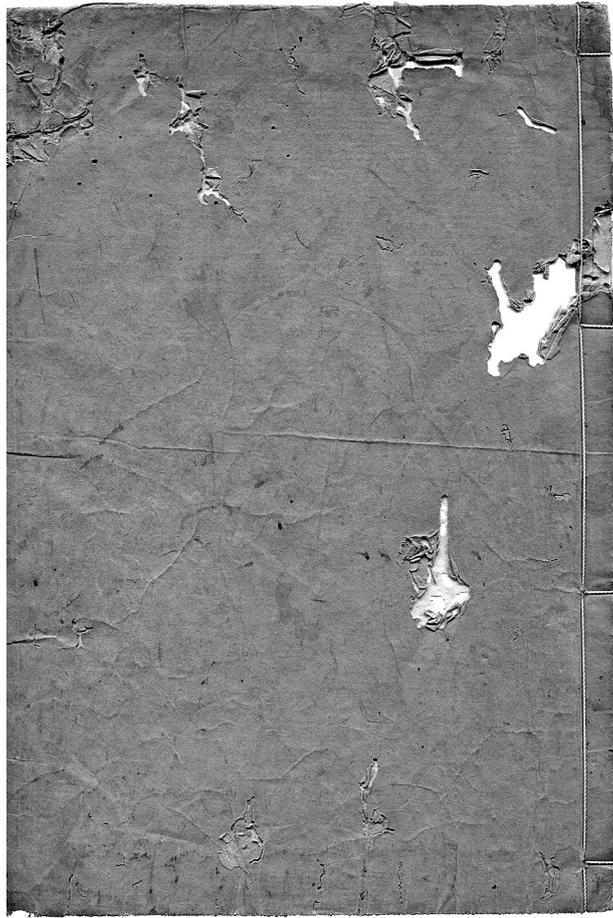
【追記】

画像処理・翻刻文作成について次の諸氏の助力を得た。御礼申し上げます。

- ・岩城佑希（大学院生活機構研究科生活文化研究専攻二年）
- ・岡本夏奈（同一年）・宇治かおる（歴史文化学科三年）・鈴木香菜（同）
- ・高橋花乃（同）・寺田晃奈（同）・永井佑季（同）・柳木真央（同）
- ・竹村佳奈（初等教育学科三年）

【翻刻凡例】

- 1 妙高山靈光寺所蔵『妙極堂遺稿』（写本、全七冊）の第六冊目巻之六を翻刻する。渋茶色紙表紙、袋綴装、縦二七九mm・横一八五mm。
- 2 原則として通行の文字表記を用いて翻刻した。
- 3 行取・清濁・誤字・宛字は底本のままに翻刻し、改丁は「⑥01オのように示した。
- 4 踊字・繰返符号は二字分までは底本のままとし、それ以上は通行の表記に改めた。
- 5 訂正・削除・後補等の指示がある時はそれに従い、後補挿入した文字には、「妙」のように傍点を付した。
- 6 韻文には適宜空格を施した。
- 7 判読不能の箇所は□で示した。



⑥ 表表紙

妙極堂遺稿卷之六

寬文十三癸丑年 行年三十五

侍者僧某等編錄

大般若經募緣疏

夫一如之道易迷。三毒之醉難醒。故一切衆生無始已來輪轉三界。沈淪八苦。解脫之時日增遠矣。覺悟之曉何以待焉。是以我大慈父能仁世尊垂應迹於五濁亂漫之國土。勵救濟於六道流浪之有情。六舟三駕。則度越苦海之舩筏。五時八教。則開示迷途之明燈也。所謂初頓花嚴。猶日照高山。唯是上根大機。

妙極堂遺稿卷之六

寬文十三癸丑年 行年三十五

侍者僧某等編錄

大般若經募緣疏

夫一如之道易迷。三毒之醉難醒。故一切衆生無始已來輪轉三界。沈淪八苦。解脫之時日增遠矣。覺悟之曉何以待焉。是以我大慈父能仁世尊垂應迹於五濁亂漫之國土。勵救濟於六道流浪之有情。六舟三駕。則度越苦海之舩筏。五時八教。則開示迷途之明燈也。所謂初頓花嚴。猶日照高山。唯是上根大機。

(白丁)

〔⑥表紙見返

〔⑥01才

之所能領解雖然無不一乘下種之妙因第二阿含廣為人天二乘之因果為衆生易解之權巧方等生蘊為大乘之初門故能四教並談別大小之勝劣辨偏圓之頓漸捨淺就深離低赴高大乘般若波羅蜜之教如熟蘊之倍融妙窮諸法實相之極際開畢竟皆空之堂奧是故為衆經中王世間之父經中佛自言假使有人供養恭敬此般若波羅蜜比前功德百來若復有人供養恭敬般若波羅蜜以為師父得於三十相八十種好乃至無量相好故取意又云

般若波羅蜜其德無等無上最勝尚勝充滿一閻浮提舍利威力譬如負債人若有親近國王供給左右債主還恭敬供養負債人不復怖畏所以者何此人依近國王憑恃有力故般若如王舍利如負債人取意依智論說恭敬供養禮拜讚誦般若波羅蜜善男子善女人所得功德略說有二十一種一者堅牢地神常恒守護二者一切夜叉諸惡鬼神非人等不得其便三者魔王魔民不能障導四者此人免離九種橫死一得病無醫二王法誅戮三非人奪命四精氣四火焚五水溺六惡獸啖七墮山崖八毒藥呪九飢渴所困五者轉重輕受六者若入軍陳刀箭

之所能領解雖然無不一乘下種之妙因第二阿含廣為人天二乘之因果為衆生易解之權巧方等生蘊為大乘之初門故能四教並談別大小之勝劣辨偏圓之頓漸捨淺就深離低赴高大乘般若波羅蜜之教如熟蘊之倍融妙窮諸法實相之極際開畢竟皆空之堂奧是故為衆經中王世間之父經中佛自言假使有人供養恭敬此般若波羅蜜比前功德百來若復有人供養恭敬般若波羅蜜以為師父得於三十相八十種好乃至無量相好故取意又云

般若波羅蜜其德無等無上最勝尚勝充滿一閻浮提舍利威力譬如負債人若有親近國王供給左右債主還恭敬供養負債人不復怖畏所以者何此人依近國王憑恃有力故般若如王舍利如負債人取意依智論說恭敬供養禮拜讚誦般若波羅蜜善男子善女人所得功德略說有二十一種一者堅牢地神常恒守護二者一切夜叉諸惡鬼神非人等不得其便三者魔王魔民不能障導四者此人免離九種橫死一得病無醫二王法誅戮三非人奪命四精氣四火焚五水溺六惡獸啖七墮山崖八毒藥呪九飢渴所困五者轉重輕受六者若入軍陳刀箭

矛鎗不能傷害何况失命七者種種毒藥不能沮壞八者咒詛厭盡還著本人九者設墮火坑火不能燒十者設遭洪水不能漂溺十一者怨賊王難皆悉解脫十二者四百病能得消滅十三者譬如如意寶珠能愈癩病此經又能除愈癩病何以故除其宿世重罪業障故消滅身癩心癩二種重病故十四者十方無量阿僧祇耶世界之中諸天善神皆以衛護十五者釋提桓因與阿修羅共鬪戰時誦此般若必得勝利十六者一切諸天五衰相現當墮惡道誦此般若還生本處十七者若有官事當加譴責若有誦誦

般若王臣吏卒還生愛敬歡喜問訊十八者一切外道諸仙等依此般若所為呪術得大靈驗十九者佛說般若之時有諸外道欲破佛法來詣佛所釋提桓因即誦般若外道師等捨離憍慢禮佛而去二十者此人不墮三惡趣中亦復不生人中貧窮下賤工師除廁擔屍等家常生尊貴財貨豐足人所歸敬六根完具相好端嚴人所愛憐一切所願當得如意二十一者此人捨此身後速詣淨土蓮花化生三十二相具足圓滿入十方界化諸有情乃至證得無上菩提取意又經云二百佛言舍利弗我滅度後五百歲

矛鎗不能傷害何况失命七者種種毒藥不能沮壞八者咒詛厭盡還著本人九者設墮火坑火不能燒十者設遭洪水不能漂溺十一者怨賊王難皆悉解脫十二者四百病能得消滅十三者譬如如意寶珠能愈癩病此經又能除愈癩病何以故除其宿世重罪業障故消滅身癩心癩二種重病故十四者十方無量阿僧祇耶世界之中諸天善神皆以衛護十五者釋提桓因與阿修羅共鬪戰時誦此般若必得勝利十六者一切諸天五衰相現當墮惡道誦此般若還生本處十七者若有官事當加譴責若有誦誦

般若王臣吏卒還生愛敬歡喜問訊十八者一切外道諸仙等依此般若所為呪術得大靈驗十九者佛說般若之時有諸外道欲破佛法來詣佛所釋提桓因即誦般若外道師等捨離憍慢禮佛而去二十者此人不墮三惡趣中亦復不生人中貧窮下賤工師除廁擔屍等家常生尊貴財貨豐足人所歸敬六根完具相好端嚴人所愛憐一切所願當得如意二十一者此人捨此身後速詣淨土蓮花化生三十二相具足圓滿入十方界化諸有情乃至證得無上菩提取意又經云二百佛言舍利弗我滅度後五百歲

東北方國善男善女等能於此經受持讀誦拜供養如說修行抄大聖懸記誠哉我等當澆季之濁濫生扶桑之邊鄙幸蒙聖朝無為之德化遭般若最勝之妙典一失人身万劫得此度不勵後悔何益因茲欲於此常樂寺安置大般若經將來成轉讀之淨善增益藥師如來之威光上祈金輪聖主之寶祚下饒天下万民之威福於是就洛陽書肆求覓摺寫經王價直鉅大資財微薄是故勸誘十方有信之道俗請乞隨力施與之助緣願求一塵崇嶽一滴深湖殊冀篤信縑素與力同心抑又藥師如來十二大

願救脫像法轉時衆生七千葉又摧滅煩惱結使怨敵挑七層輪燈則七難忽消除造五色綵幡則五苦速解脫專念稱讚則已盡壽命猶得增益至心歸信則九種災橫未然消散況一切其耳之小因被衆病悉除之巨益乎凡其妙應山毫地墨所不能記就中此尊遠雖東方瑠璃界之教主近則南閩浮提州之導師是故南州空一顯色即彰吠瑠璃之色云佛云法彼此相應感應何空謹疏寬文十三年正月日
三十三處巡禮三十三度供養漫茶羅供表白
夫兩部曼荼之密壇者妙雲閣塔紹繼薩埵家業於

東北方國善男善女等能於此經受持讀誦拜供養如說修行抄大聖懸記誠哉我等當澆季之濁濫生扶桑之邊鄙幸蒙聖朝無為之德化遭般若最勝之妙典一失人身万劫得此度不勵後悔何益因茲欲於此常樂寺安置大般若經將來成轉讀之淨善增益藥師如來之威光上祈金輪聖主之寶祚下饒天下万民之威福於是就洛陽書肆求覓摺寫經王價直鉅大資財微薄是故勸誘十方有信之道俗請乞隨力施與之助緣願求一塵崇嶽一滴深湖殊冀篤信縑素與力同心抑又藥師如來十二大

願救脫像法轉時衆生七千葉又摧滅煩惱結使怨敵挑七層輪燈則七難忽消除造五色綵幡則五苦速解脫專念稱讚則已盡壽命猶得增益至心歸信則九種災橫未然消散況一切其耳之小因被衆病悉除之巨益乎凡其妙應山毫地墨所不能記就中此尊遠雖東方瑠璃界之教主近則南閩浮提州之導師是故南州空一顯色即彰吠瑠璃之色云佛云法彼此相應感應何空謹疏寬文十三年正月日
三十三處巡禮三十三度供養漫茶羅供表白
夫兩部曼荼之密壇者妙雲閣塔紹繼薩埵家業於

南印之朝通照擲杵流演遮那乘教于東扶之國已
降直入直修之遺風廣扇八紘頓圓頓證之玄門宏
闡四城至如四重聖尊凝妙相而森列八供定妃擊
供器而駢羅一體三自己非齒接之境界二乘十地
亦復絕離之分域是故授擇上上決定信解許以空
空無著心智誠是密藏深玄不可翰墨大聖權施難
輒以設圖繪巧妙為成梯磴劣慧愚鈍易誠速解況
復纒臨密壇離恒沙障疾證妙果一見曼荼經十億
劫不入惡道所謂上求菩提勝因下化衆生大利莫
上乎斯莫大乎焉抑又觀自在尊者尋本則正法明

如來法身四德果滿之尊位言迹則施無畏菩薩如
幻三昧因圓之大聖入重玄門月光潔影于渴仰心
之水普門示現花色散香于功德林之梢普現色身
利益廻超諸尊羣類引攝方便誠過衆聖爰弟子某
甲誤依前業薄福之因雖受今世孤露之身幸生正
法流布之世得聞大聖利物之益悲猶有餘喜又不
足因茲運步三十三之勝嶺以仰當來之值遇累度
三十三之遍數以果現今之求願於是扣十方縑素
之門戶募微少錢財之資緣開兩部曼荼展開眼供
養之梵筵奉大士尊容備飲食茶湯之禮奠仰願同

南印之朝通照擲杵流演遮那乘教于東扶之國已
降直入直修之遺風廣扇八紘頓圓頓證之玄門宏
闡四城至如四重聖尊凝妙相而森列八供定妃擊
供器而駢羅一體三自己非齒接之境界二乘十地
亦復絕離之分域是故授擇上上決定信解許以空
空無著心智誠是密藏深玄不可翰墨大聖權施難
輒以設圖繪巧妙為成梯磴劣慧愚鈍易誠速解況
復纒臨密壇離恒沙障疾證妙果一見曼荼經十億
劫不入惡道所謂上求菩提勝因下化衆生大利莫
上乎斯莫大乎焉抑又觀自在尊者尋本則正法明

如來法身四德果滿之尊位言迹則施無畏菩薩如
幻三昧因圓之大聖入重玄門月光潔影于渴仰心
之水普門示現花色散香于功德林之梢普現色身
利益廻超諸尊羣類引攝方便誠過衆聖爰弟子某
甲誤依前業薄福之因雖受今世孤露之身幸生正
法流布之世得聞大聖利物之益悲猶有餘喜又不
足因茲運步三十三之勝嶺以仰當來之值遇累度
三十三之遍數以果現今之求願於是扣十方縑素
之門戶募微少錢財之資緣開兩部曼荼展開眼供
養之梵筵奉大士尊容備飲食茶湯之禮奠仰願同

心道俗誇福壽無量之樂結緣老少脫種種惡趣之苦觀夫高山後時七覺之德樹交柯長川前注三密之法流揚波乃至鐵圍沙界平等拔濟有頂無間普皆迴向敬白

同諷誦文

夫惟娑婆有緣大士雖多觀自在者之德維馨適化無方鉅益不少心念不空之誓誠深加旃三十三身也一門之普門包四智於性身一十九說也理界之理德統十利於金剛顯密之談旨雖殊本迹之法體惟同粵信心弟子某甲凝丹心仰真應蓮步三十三

心道俗誇福壽無量之樂結緣老少脫種種惡趣之苦觀夫高山後時七覺之德樹交柯長川前注三密之法流揚波乃至鐵圍沙界平等拔濟有頂無間普皆迴向敬白

同諷誦文

夫惟娑婆有緣大士雖多觀自在者之德維馨適化無方鉅益不少心念不空之誓誠深加旃三十三身也一門之普門包四智於性身一十九說也理界之理德統十利於金剛顯密之談旨雖殊本迹之法體惟同粵信心弟子某甲凝丹心仰真應蓮步三十三

處合素願禮聖像屈指三十三度遂使延延六和敬之僧伽作梵讚梵唄之佛事供養兩部界之曼荼展殊勝殊妙之法筵是則所資則懇々之同志不擇緇白貴賤所求則微々與力無簡絲毫銖錢既而積少施成大功已齊點塵之累巨嶽展少雲遍大虛蓋同星火之盡千界然乃四輩檀越成辨二世之勝願十界含靈圓滿三身之妙德仍所請諷誦如件寬文十三年二月十七日敬白

八幡大神影贊 應米田八郎左衛門需

韜默圓明性淨光化龍一夜入扶桑傍人借問壁間

處合素願禮聖像屈指三十三度遂使延延六和敬之僧伽作梵讚梵唄之佛事供養兩部界之曼荼展殊勝殊妙之法筵是則所資則懇々之同志不擇緇白貴賤所求則微々與力無簡絲毫銖錢既而積少施成大功已齊點塵之累巨嶽展少雲遍大虛蓋同星火之盡千界然乃四輩檀越成辨二世之勝願十界含靈圓滿三身之妙德仍所請諷誦如件寬文十三年二月十七日敬白

八幡大神影贊 應米田八郎左衛門需

韜默圓明性淨光化龍一夜入扶桑傍人借問壁間

像道是第十六聖皇

菅神像贊

炳燦輝耀千古萬古道德是仰文章惟祖出群拔衆
過龍邁虎何為苟且王事靡盬

牛尾山法嚴寺實錄

東限近江州 南限大峯頂
西限溪水 北限大谷

夫寂光闍域毘盧會場身土感應不得別異是故有
身則有土有感則有應寔夫不空焉洛京之東宇治
之北有山名曰音羽縱橫凡八九里脩嶺尖峯以十

像道是第十六聖皇

菅神像贊

炳燦輝耀千古萬古道德是仰文章惟祖出群拔衆
過龍邁虎何為苟且王事靡盬

牛尾山法嚴寺實錄

東限近江州 南限大峯頂
西限溪水 北限大谷

夫寂光闍域毘盧會場身土感應不得別異是故有
身則有土有感則有應寔夫不空焉洛京之東宇治
之北有山名曰音羽縱橫凡八九里脩嶺尖峯以十

而數其ノ中ノ之尤者曰之牛尾東距石山一十餘里南
阻醍醐六七許里地遂深則遠隔市闌境絕僻則時
見送迎峯巒險峻衝天薄漢溪壑宏深歎霧蒸烟紅
花後開也則青春添騷客之詩軸素雪先零也則玄
冬戒老僧之禪衲神龍之噴氣也為行雲兮為行雨
珍禽之下也發新聲兮奏新曲楓映夕陽則駐遊
人之轡松陵歲寒則彰烈士之節泉滴脉々綴綠
珠乍散碧玉谿流滌々或走青蛇或躍金鱗地匪匡
廬靈仙禪客宅之卜之瀑曰音羽詞人才士賦之咏
之斯澗流也則清水飛泉之根源也里諺稱曰自是

而數其ノ中ノ之尤者曰之牛尾東距石山一十餘里南
阻醍醐六七許里地遂深則遠隔市闌境絕僻則時
見送迎峯巒險峻衝天薄漢溪壑宏深歎霧蒸烟紅
花後開也則青春添騷客之詩軸素雪先零也則玄
冬戒老僧之禪衲神龍之噴氣也為行雲兮為行雨
珍禽之下也發新聲兮奏新曲楓映夕陽則駐遊
人之轡松陵歲寒則彰烈士之節泉滴脉々綴綠
珠乍散碧玉谿流滌々或走青蛇或躍金鱗地匪匡
廬靈仙禪客宅之卜之瀑曰音羽詞人才士賦之咏
之斯澗流也則清水飛泉之根源也里諺稱曰自是

而下至音羽里絶而無水唯沙磧耳蓋瀆流地下而
出清水之下也山東山西同曰音羽是此之田矣嗚
呼睿叟遺履鎮師認蹤良不漫施矣初光仁帝寶龜
九年四月沙門延鎮有夢事沂波川而行之見一
支派有黃金色鎮行窮水源有一飛瀑側有草菴今之清水
也寺是白衣老僧居之鎮問住此幾年姓名為誰答曰
吾名行睿隱處斯地已二百歲常待千手大悲神呪
吾待汝者久今果來也我有東州之行未果汝且代
我棲遲于此地又好建練若乃指庭前株栢曰我
以是擬大悲像材吾若遲歸汝先營之言已向東而

也小山之邑有覺念之者世為里正一夕夢白晷之
翁謂念曰我降化于牛尾之已久以殿閣火之故移
于棲閑寺之內殿子為我設還歸之計念翌日投于
彼徒遍諗夢事有一者宿覺然而曰我亦宿夢猶子
之言何其一夢兩感合符節乎則聚諸徒啓于殿扉
慈容儼然亦一奇也念傾私庫兼募眾緣營構再新
庶民子來頓復舊制是乃驅七聚落之士女輿而歸
念之家寢成鉅富任宦者眾孫子奕葉執信投贊捨
田施地之者不為不多予恐後世失其傳故書

同寺興建幹緣疏

而下至音羽里絶而無水唯沙磧耳蓋瀆流地下而
出清水之下也山東山西同曰音羽是此之田矣嗚
呼睿叟遺履鎮師認蹤良不漫施矣初光仁帝寶龜
九年四月沙門延鎮有夢事沂波川而行之見一
支派有黃金色鎮行窮水源有一飛瀑側有草菴今之清水
也寺是白衣老僧居之鎮問住此幾年姓名為誰答曰
吾名行睿隱處斯地已二百歲常持千手大悲神呪
吾待汝者久今果來也我有東州之行未果汝且代
我棲遲于此地又好建練若乃指庭前株栢曰我
以是擬大悲像材吾若遲歸汝先營之言已向東而

也小山之邑有覺念之者世為里正一夕夢白晷之
翁謂念曰我降化于牛尾之已久以殿閣火之故移
于棲閑寺之內殿子為我設還歸之計念翌日投于
彼徒遍諗夢事有一者宿覺然而曰我亦宿夢猶子
之言何其一夢兩感合符節乎則聚諸徒啓于殿扉
慈容儼然亦一奇也念傾私庫兼募眾緣營構再新
庶民子來頓復舊制是乃驅七聚落之士女輿而歸
念之家寢成鉅富任宦者眾孫子奕葉執信投贊捨
田施地之者不為不多予恐後世失其傳故書

同寺興建幹緣疏

夫惟三世、勃歎應物之善巧紅紫異色、過恒、索多利
生之妙權濃淡分味、能引之門雖多、說法方便惟最
雖言六塵各有說法諸塵之中、聲塵誠為之尤、況復
此土有情耳根最利、是故能仁世尊以善巧智應周
諸趣、言音演說種種性、欲所宜聞法、破裂疑網、開
照門、如是無量法聲無邊、言教悉皆無非、觀自在者
之三昧、因茲娑婆世界之中、號之為施無畏者、仰之
為我大慈父、是乃普門示現、三業鉅益遍被、三十三
種之根緣、一心稱名、衆機類音頓脫、三毒七難之苦
患、至如夫、戒日大王、隨聞記云西國戒日王於十八日敬觀音得為帝王為報恩每

去過期、不返鎮出、菴尋求、不能相見、一日到此嶺上
翁之履、在鎮竊念、行睿居士、則大悲之應現、經曰、即
現居士、此其是也、斯嶺也、則補陀靈巖、即是十方諸
國土無刹不現身之一處也、遺其履者、又彰普門示
現之迹、耳、即開榛莽、創造梵宇、以法嚴名之、孫伽之
自在尊為蓋示大士有緣之勝崛也、志賀之舊都、有
法部主也、蓋示大士有緣之勝崛也、志賀之舊都、有
千眼大士不動明王多聞天王之像、共天智皇帝鎮
御刻雕也
得、而安之鎮、延曆年中、遇鎮守府、將軍坂田村麿、謀
而建清水寺、至今、清水寺、徒時、詣此、此寺、曰清
水之奧院、
誦經修法、云空海和尚經由之次、一來玄覽林壑之

夫惟三世、勃歎應物之善巧紅紫異色、過恒、索多利
生之妙權濃淡分味、能引之門雖多、說法方便惟最
雖言六塵各有說法諸塵之中、聲塵誠為之尤、況復
此土有情耳根最利、是故能仁世尊以善巧智應周
諸趣、言音演說種種性、欲所宜聞法、破裂疑網、開
照門、如是無量法聲無邊、言教悉皆無非、觀自在者
之三昧、因茲娑婆世界之中、號之為施無畏者、仰之
為我大慈父、是乃普門示現、三業鉅益遍被、三十三
種之根緣、一心稱名、衆機類音頓脫、三毒七難之苦
患、至如夫、戒日大王、隨聞記云西國戒日王於十八日敬觀音得為帝王為報恩每

去過期、不返鎮出、菴尋求、不能相見、一日到此嶺上
翁之履、在鎮竊念、行睿居士、則大悲之應現、經曰、即
現居士、此其是也、斯嶺也、則補陀靈巖、即是十方諸
國土無刹不現身之一處也、遺其履者、又彰普門示
現之迹、耳、即開榛莽、創造梵宇、以法嚴名之、孫伽之
自在尊為蓋示大士有緣之勝崛也、志賀之舊都、有
法部主也、蓋示大士有緣之勝崛也、志賀之舊都、有
千眼大士不動明王多聞天王之像、共天智皇帝鎮
御刻雕也
得、而安之鎮、延曆年中、遇鎮守府、將軍坂田村麿、謀
而建清水寺、至今、清水寺、徒時、詣此、此寺、曰清
水之奧院、
誦經修法、云空海和尚經由之次、一來玄覽林壑之

幽賞甚可愛也。適然暫止佳蹟實多持呪穿巖滴清水
迸出今之關坐盤誦經神人預聽今溪上之誦經巖
也後人構堂標其
德三井圓珍將修如法經會蓋膳寫彼經之法不得
用皮膠於此旁訪得自然之墨藩于此窟中以備其
要須余來止住徒眾循行此法之者分取以具染翰
每歲以為準也誠惟大士有妙智之尊主法曼之統
領也胡漢文字諸趣言音並皆莫非其三昧而今涌
出達磨亦有之妙墨蓋為此也中古殿堂增其崇麗
門廡煥乎嚴飾四來學者實歸者多應安之初祝融
作菑堂宇化燼聖像烏有遐邇未嘗不聞之而嗟悼

幽賞甚可愛也。適然暫止佳蹟實多持呪穿巖滴清水
迸出今之關坐盤誦經神人預聽今溪上之誦經巖
也後人構堂標其
德三井圓珍將修如法經會蓋膳寫彼經之法不得
用皮膠於此旁訪得自然之墨藩于此窟中以備其
要須余來止住徒眾循行此法之者分取以具染翰
每歲以為準也誠惟大士有妙智之尊主法曼之統
領也胡漢文字諸趣言音並皆莫非其三昧而今涌
出達磨亦有之妙墨蓋為此也中古殿堂增其崇麗
門廡煥乎嚴飾四來學者實歸者多應安之初祝融
作菑堂宇化燼聖像烏有遐邇未嘗不聞之而嗟悼

十八日設
無遮大會之治國依禱觀音沮渠蒙遜之延壽在歸
此尊必薨免羅刹之口法力解野火之憂上自王公
太夫下至街童市豎靡不沐浴誰敢間然經云若有
歸依供養禮拜恭敬當免十五種惡死得十五種善
生其惡死者一飢餓困苦死二枷鎖杖楚死三為怨
家死四軍陳鬪死五虎狼害死六為毒蛇蜈蚣死七
水火焚漂死八為毒藥死九蠱毒害死十狂亂失念
死十一崖岸墜落死十二惡人厭魅死十三邪神惡
鬼得便死十四為惡病死十五非分自害死十五種
善生者一所生之處恒逢善王二生善國三生值好

十八日設
無遮大會之治國依禱觀音沮渠蒙遜之延壽在歸
此尊必薨免羅刹之口法力解野火之憂上自王公
太夫下至街童市豎靡不沐浴誰敢間然經云若有
歸依供養禮拜恭敬當免十五種惡死得十五種善
生其惡死者一飢餓困苦死二枷鎖杖楚死三為怨
家死四軍陳鬪死五虎狼害死六為毒蛇蜈蚣死七
水火焚漂死八為毒藥死九蠱毒害死十狂亂失念
死十一崖岸墜落死十二惡人厭魅死十三邪神惡
鬼得便死十四為惡病死十五非分自害死十五種
善生者一所生之處恒逢善王二生善國三生值好

時四常逢善友五身根具足六道心純熟七不犯禁戒八眷屬和順九財食豐足十他人恭敬十一所有財寶無被劫奪他人十二所求悉遂十三天龍善神擁衛十四見佛聞法十五得聞正法悟甚深義已上其餘厭魅咒詛疫癘邪祟毒獸毒蟲毒藥毒毒十惡五逆四重諸罪皆悉消除皆悉解脫所有勝利不可勝計矣身當寺也則延鎮法師開基之勝場千手大聖降迹之靈輻也草創以後堂宇增壯徒侶繁衍嗟呼物不常有盛事難再殿閣圯壞門庭蕭然唯餘一堂耳有一檀主見斯隳廢不忍棄置伐材于林鑿石

時ニ四ニハ常ニ逢フ善友ニ五ニハ身根具足ニ六ニハ道心純熟ニ七ニハ不レ犯レ禁戒ニ八ニハ眷屬和順ニ九ニハ財食豐足ニ十ニハ他人ニ恭敬十一ニハ所有財寶無レ被レ劫奪他人ニ十二ニハ所求悉ク遂ク十三ニハ天龍善神擁衛ス十四ニハ見レ上リ佛聞法ヲ十五ニハ得下聞正法ヲ悟ルコトヲ甚深ノ義トシテ已上其餘ノ厭魅咒詛疫癘邪祟毒獸毒蟲毒藥毒毒十惡五逆四重諸罪皆悉消除シ皆悉ク解脫シ所有ノ勝利不レ可ニ勝テ計フ矣身當寺也則延鎮法師開基之勝場千手大聖降迹ノ之靈輻也草創以後堂宇增壯徒侶繁衍嗟呼物不ニ常ニシモ有盛事難再殿閣圯壞門庭蕭然唯余ス一ノ堂耳有一檀主見斯隳廢不忍棄置伐材于林鑿石

於山營構再新方丈食堂煥乎眩雖爾佛殿佛塔輪藏山門未遑興建檀主即世某甲欲繼其志力微而功大是故周告十方有信之人乞求一涓一塵之助緣將畢此事伏乞貴賤縉素勳力同心使成斯願然乃有緣之衆壽筭久保齊喬松之古福德定圓同鄭陶之昔乃至三有之獄四生之内速登一真之臺忽入同如之殿年月日

阿州勝浦郡靈鷲山記

佛言舍利子我滅度已後後五百歲彼東北方諸善男女等得聞我法深生信解已上寔以提樹風扇之

阿州勝浦郡靈鷲山ノ記

於山ニ營構再ニ新ニス方丈食堂煥乎トシテ眩ニス觀雖爾佛殿佛塔輪藏山門未レ建ニ興建ニ檀主即世某甲欲繼ニ其志力微而功大ヒナリ是故周ク告テ十方有信之人ニ乞求メテ一涓一塵之助緣ヲ將レニ畢ニト此ノ事ヲ伏乞貴賤縉素勳力ヲ同心使成レ成ス願然レハ乃有緣之衆壽筭久保齊喬松之古ハニ福德定圓同鄭陶之昔ニ乃至三有之獄四生之内速ニ登リ一真之臺ニ忽ニ入リ同如之殿ニ年月日

處緇白雖靡其德化竺乾猶稀衍門宣傳之國扶桑
日升之徵像末尤仰其宗教岨夷獨誇上乘弘通之
地是故名山勝岨往往而在賢聖各垂化迹佛塔僧
寺處處而夥天神常事擁衛阿州勝浦郡有一名區
其之焉狀也駢大瀧而爭雌雄挺羣山以殊優降東
望則滄溟茫茫河伯之歎將發胸臆蓬壺歷歷徐福
之祠猶在眼睫高岡龍臥伐木之聲更幽列戶鱗聯
爨薪之煙時起西睽則有岑峯鬱律峭壁之半天兮
日落而翳明絕巔之衝雲兮月斜以蔽輝南有大瀧
之嶽神童捨身千古奇蹟猶存智尊卜宅億載神德

維馨北則陰林交柯巨樹互杪珍禽春囀則王孫遊
而忘歸異葩時敷則詞客爭而寄投然而斯峯屹立
四山之中心像彼耆闍崛之有五山故名曰靈鷲也
又夫大瀧在陽則山印彰智界獨一之儀鷲頭居陰
則地實表理佛含攝之德南則空藏之摩尼同色於
大虛平等之自證推而廣之北則地藏之計都奮威
於衆軍導引之外用攬而可別至如攝威儀而歸平
等分一體以成多身表相似有殊方內鑒終無異途
瑜伽教行于茲蕃衍誠有所以乎哉初曩祖空海大
師應和食明神之指示仰虛空藏尊之靈應躋攀大

處緇白雖靡其德化竺乾猶稀衍門宣傳之國扶桑
日升之徵像末尤仰其宗教岨夷獨誇上乘弘通之
地是故名山勝岨往往而在賢聖各垂化迹佛塔僧
寺處處而夥天神常事擁衛阿州勝浦郡有一名區
其之焉狀也駢大瀧而爭雌雄挺羣山以殊優降東
望則滄溟茫茫河伯之歎將發胸臆蓬壺歷歷徐福
之祠猶在眼睫高岡龍臥伐木之聲更幽列戶鱗聯
爨薪之煙時起西睽則有岑峯鬱律峭壁之半天兮
日落而翳明絕巔之衝雲兮月斜以蔽輝南有大瀧
之嶽神童捨身千古奇蹟猶存智尊卜宅億載神德

維馨北則陰林交柯巨樹互杪珍禽春囀則王孫遊
而忘歸異葩時敷則詞客爭而寄投然而斯峯屹立
四山之中心像彼耆闍崛之有五山故名曰靈鷲也
又夫大瀧在陽則山印彰智界獨一之儀鷲頭居陰
則地實表理佛含攝之德南則空藏之摩尼同色於
大虛平等之自證推而廣之北則地藏之計都奮威
於衆軍導引之外用攬而可別至如攝威儀而歸平
等分一體以成多身表相似有殊方內鑒終無異途
瑜伽教行于茲蕃衍誠有所以乎哉初曩祖空海大
師應和食明神之指示仰虛空藏尊之靈應躋攀大

瀧念持密軌熏修累日練行彌月遂得寶劍降而立
室內明星飛以入口中悉地于茲成辨般若此時發
揮延曆十七年 綸詔響應 勅州之使君藤原朝
臣木山於大瀧嶽初建伽藍此時大師自一宿居寺
在嶽麓之賀茂村大師自此每日戴屋上嶽園土上
木事日入而還後此創寺名一宿居寺
嶽之次脩坂之半憩息放月北丁此峯有一雙鶴翱
翔嘹唳每日望之日日如此大師意謂彼處須有異
事佗日躬往認尋大樹枝頭有地藏菩薩小像靈鶴
兩翼葺庇以擬宮殿防禦風雨雄去則雌護之雌退
則雄覆之于時大師一心祈求唯願尊者哀愍覆護

使大瀧之經營無有違妨不日成之若如願者必須
次於此地建佛塔構精藍弘正法利羣生如是畢而
乃退自余已後自大瀧嶽遊茲瞻禮敬崇雖經途之
多艱未嘗一日而懈也其所歷必濟長川後人其津
渡之處呼為鶴瀨至鶴瀨之經途故有又自一宿
居寺上大瀧之半途必親採花遙嚮茲峯禮拜供養
遂稱其處曰鶴花折當于大瀧營構告成 綸綍再
出使於此嶺草創梵宇大師則卜大樹下始闢基址
得一小鐘至今為寺寶大師感悅倍甚此知曾為前聖經
行之梵區宜乎聖尊之彰靈也遂乃伐木于林徵覽

瀧念持密軌熏修累日練行彌月遂得寶劍降而立
室內明星飛以入口中悉地于茲成辨般若此時發
揮延曆十七年 綸詔響應 勅州之使君藤原朝
臣木山於大瀧嶽初建伽藍此時大師自一宿居寺
在嶽麓之賀茂村大師自此每日戴屋上嶽園土上
木事日入而還後此創寺名一宿居寺
嶽之次脩坂之半憩息放月北丁此峯有一雙鶴翱
翔嘹唳每日望之日日如此大師意謂彼處須有異
事佗日躬往認尋大樹枝頭有地藏菩薩小像靈鶴
兩翼葺庇以擬宮殿防禦風雨雄去則雌護之雌退
則雄覆之于時大師一心祈求唯願尊者哀愍覆護

使大瀧之經營無有違妨不日成之若如願者必須
次於此地建佛塔構精藍弘正法利羣生如是畢而
乃退自余已後自大瀧嶽遊茲瞻禮敬崇雖經途之
多艱未嘗一日而懈也其所歷必濟長川後人其津
渡之處呼為鶴瀨至鶴瀨之經途故有又自一宿
居寺上大瀧之半途必親採花遙嚮茲峯禮拜供養
遂稱其處曰鶴花折當于大瀧營構告成 綸綍再
出使於此嶺草創梵宇大師則卜大樹下始闢基址
得一小鐘至今為寺寶大師感悅倍甚此知曾為前聖經
行之梵區宜乎聖尊之彰靈也遂乃伐木于林徵覽

于陶匠者運斤攫夫薦坊塔寺門樓之麗誠甲于邦
大師乃親操鐵雕刻地藏尊像一刻以前小像藏於
其頭命寺曰鶴林焉蓋初因鶴而得之故也又暗應
鷲峯之地形彼此胎胎與吻同合可謂天然之奇數
也号院曰寶珠是乃擬大士之三昧耶智印者也大
師罄青龍寺之瓶水瀉黑鷲嶺之金地已降道福賑
衍門學如市碩德名望不為不多遂能廣闢積廬徒
衆日盛傳言歲野之下州足利郡岩船山之僧來而
給侍有年一日檀越薦供諸徒悉應請彼僧為掌庫
鑰時其不在乃破像後光形三分之一及取大師真

于陶匠者運斤攫夫薦坊塔寺門樓之麗誠甲于邦
大師乃親操鐵雕刻地藏尊像一刻以前小像藏於
其頭命寺曰鶴林焉蓋初因鶴而得之故也又暗應
鷲峯之地形彼此胎胎與吻同合可謂天然之奇數
也号院曰寶珠是乃擬大士之三昧耶智印者也大
師罄青龍寺之瓶水瀉黑鷲嶺之金地已降道福賑
衍門學如市碩德名望不為不多遂能廣闢積廬徒
衆日盛傳言歲野之下州足利郡岩船山之僧來而
給侍有年一日檀越薦供諸徒悉應請彼僧為掌庫
鑰時其不在乃破像後光形三分之一及取大師真

蹟之記當寺末遡還本山新剋聖像取彼光之一片
藏像之腔縮白競趨所求必近聞彼國之僧伏惟
菩薩於師子奮迅之所發衆生界盡之弘願於初利
天宮之會得吾今殷勤之親囑是故每日晨朝之入
定六道救拔之與福皇乎唐哉經中堅牢地天白佛
言世尊是地藏菩薩於閻浮提有大因緣如文殊普
賢觀音彌勒亦化百千身形度於六道其願尚有畢
竟是地地藏菩薩教化六道一切衆生所發誓願劫數
如千百億恒河沙世尊我觀未來及現在衆生於所
住處於南方清潔之地以土石竹木作其龕室是中

蹟之記當寺末遡還本山新剋聖像取彼光之一片
藏像之腔縮白競趨所求必近聞彼國之僧伏惟
菩薩於師子奮迅之所發衆生界盡之弘願於初利
天宮之會得吾今殷勤之親囑是故每日晨朝之入
定六道救拔之與福皇乎唐哉經中堅牢地天白佛
言世尊是地藏菩薩於閻浮提有大因緣如文殊普
賢觀音彌勒亦化百千身形度於六道其願尚有畢
竟是地地藏菩薩教化六道一切衆生所發誓願劫數
如千百億恒河沙世尊我觀未來及現在衆生於所
住處於南方清潔之地以土石竹木作其龕室是中

能塑畫乃至金銀銅鐵作地藏形像燒香供養瞻禮讚歎是人若處即得十種利益何等為十一者土地豐壤二者家宅永安三者先亡生天四者現存壽益五者求者遂意六者無水火災七者虛耗辟除八者杜絕惡夢九者出入神護十者遇聖因又云佛告虛空藏菩薩諦聽諦聽吾當為汝分別說之若未來世有善男子善女人見地藏形像乃至香花飲食衣服珍寶布施供養讚歎瞻禮得二十八種利益一者天龍護念二者善果日增三者集聖上因四者菩提不退五者衣食豐足六者疾疫不臨七者離水火災八

者無盜賊厄九者人見欽敬十者神鬼助持十一者女轉男身十二者為王臣女十三者端正相好十四者多生天上十五者或為帝王十六者宿智命通十七者有求皆從十八者眷屬歡樂十九諸橫消滅二十者業道永除二十一者去處盡通二十二者夜夢安樂二十三者先亡離苦二十四者宿福受生二十五者諸聖讚歎二十六者聰明利根二十七者饒慈愍心二十八者畢竟成佛復次虛空藏菩薩若現在未來天龍鬼神聞地藏名禮地藏形或聞地藏本願事行讚歎瞻禮得七種利益一者速超聖地二者惡

能の塑画乃至金銀銅鉄作地藏の形像燒香供養瞻禮讚歎是人若處即得十種利益何等ヲカスルト一者土地豐壤二者家宅永安三者先亡生天四者現存ノ壽益五者求ル者遂ク意ヲ六者無水火災七者虚耗辟除八者杜絶惡夢九者出入ニ神護十者遇聖因又云佛告虚空藏菩薩諦聽諦聽吾當為汝分別說之若未來世有善男子善女人見地藏の形像乃至香花飲食衣服珍寶布施供養讚歎瞻禮得二十八種利益一者天龍護念一者善果日増二者集聖上因四者菩提不退五者衣食豐足六者疾疫不臨七者離水火災八

者無盜賊厄九者人見欽敬十者神鬼助持十一者女轉男身十二者為王臣女十三者端正相好十四者多生天上十五者或為帝王十六者宿智命通十七者有求皆從十八者眷屬歡樂十九諸橫消滅二十者業道永除二十一者去處盡通二十二者夜夢安樂二十三者先亡離苦二十四者宿福受生二十五者諸聖讚歎二十六者聰明利根二十七者饒慈愍心二十八者畢竟成佛復次虛空藏菩薩若現在未來天龍鬼神聞地藏名禮地藏形或聞地藏本願事行讚歎瞻禮得七種利益一者速超聖地二者惡

業消滅三者諸佛護臨四者菩提不退五者增長本
力六者宿命皆通七者畢竟成佛已上經文繁冗不
遑枚舉又彼瑜伽之中有勝軍法軌所謂身披大慈
悲之鎧甲手擎菩提心之幢旗膺五陰之彊敵退四
魔之勇士噫嘻大乎今像專當于斯所以者何一手
與願施群生之所希望息諸有之被困隨是則慈悲
之甲冑也一手摩尼淨菩提心之寶性也豈非置在
高幢之神珠乎於我瞻部求佛之士不可不敬重不
可不仰止為之製記以告來者

聖尊感應

源賴朝公之鎮鎌倉也此寺粥飯資乏稍近湮沒於
是本尊大士來現源君之前告言阿州之鶴林也前
劫聖賢之曾所遊履後世定慧之今所棲息焉而今
世屬澆俗人少淨信衣孟不給道侶艱窘夫吾佛囑
託王臣以使作家教之藩衛汝其汝之蓋最勝王經
王忘身弘正法應尊重法寶由斯衆安樂仁王經云
我所以是經付囑國王不付比丘比丘尼優婆塞優婆
夷所以者何無王源君替首渴仰太盛則奉金錫而
威力不能建立源君替首渴仰太盛則奉金錫而
標淳懃寺寶寄土田以賜廚餼即今山麓之鶴敷
大士乘神足而還歸之當國小松島之中洋有一小
艇蓋勢陽太神之仕官福井氏者乞神供於民戶也

業消滅三者諸佛護臨四者菩提不退五者增長本
力六者宿命皆通七者畢竟成佛已上經文繁冗不
遑枚舉又彼瑜伽之中有勝軍法軌所謂身披大慈
悲之鎧甲手擎菩提心之幢旗膺五陰之彊敵退四
魔之勇士噫嘻大乎今像專當于斯所以者何一手
與願施群生之所希望息諸有之被困隨是則慈悲
之甲冑也一手摩尼淨菩提心之寶性也豈非置在
高幢之神珠乎於我瞻部求佛之士不可不敬重不
可不仰止為之製記以告來者

聖尊感心

源賴朝公之鎮鎌倉也此寺粥飯資乏稍近湮沒於
是本尊大士來現源君之前告言阿州之鶴林也前
劫聖賢之曾所遊履後世定慧之今所棲息焉而今
世屬澆俗人少淨信衣孟不給道侶艱窘夫吾佛囑
託王臣以使作家教之藩衛汝其汝之蓋最勝王經
王忘身弘正法應尊重法寶由斯衆安樂仁王經云
我所以是經付囑國王不付比丘比丘尼優婆塞優婆
夷所以者何無王源君替首渴仰太盛則奉金錫而
威力不能建立源君替首渴仰太盛則奉金錫而
標淳懃寺寶寄土田以賜廚餼即今山麓之鶴敷
大士乘神足而還歸之當國小松島之中洋有一小
艇蓋勢陽太神之仕官福井氏者乞神供於民戶也

于時驚颺敗帆駭泚折柁千計万策七顛八倒合舟
拱手俯仰乞救大士遙見即示慈容於舷上船中人
人見其儀形殆非常人增加惶惶大士輒言慰諭言
曰汝善男子勿生怖畏我是在於當國高山之上者
即地藏菩薩也即今有故往東閩而還見汝等之遭
厄難之故來濟不虞耳慎勿恐懼我當救拯以進即
時風穩浪恬得達于岸神官乃投小松之民家遽問
主翁此間若有高山之在地藏菩薩耶翁曰有焉勝
浦郡鶴林寺是也神官疾馳至寺謁住持比丘某具
說事由即使拜之與向所見無毫末差神官敬慕誠

深心中發誓曰大聖鈞慈見危拯命無任感荷他後
我之孫子以盡來葉歸于此尊唯願益加慈護即日
捨施什物若干頂禮供養至令每載無闕然燈之供
恒規不退瞻禮之敬彼家合有吉慶之事此鶴必見
禎祥之瑞一日彼宅上空而告曰汝之家嫡可必
號曰大鶴主翁曰是非非常事誰所諭耶再告之曰衛
汝之者地藏菩薩也主翁涕泗叵駐悲喜交流遂如
教敕之云
鶴林山麓久國之里有一獠夫常陵此嶺徑峻赴阻
坐待麋鹿弓不虛發夫不苟害洞心達腋應聲而倒

于時驚颺敗帆駭泚折柁千計万策七顛八倒合舟
拱手俯仰乞救大士遙見即示慈容於舷上船中人
人見其儀形殆非常人增加惶惶大士輒言慰諭言
曰汝善男子勿生怖畏我是在於當國高山之上者
即地藏菩薩也即今有故往東閩而還見汝等之遭
厄難之故來濟不虞耳慎勿恐懼我當救拯以進即
時風穩浪恬得達于岸神官乃投小松之民家遽問
主翁此間若有高山之在地藏菩薩耶翁曰有焉勝
浦郡鶴林寺是也神官疾馳至寺謁住持比丘某具
說事由即使拜之與向所見無毫末差神官敬慕誠

深心中發誓曰大聖鈞慈見危拯命無任感荷他後
我之孫子以盡來葉歸于此尊唯願益加慈護即日
捨施什物若干頂禮供養至令每載無闕然燈之供
恒規不退瞻禮之敬彼家合有吉慶之事此鶴必見
禎祥之瑞一日彼宅上空而告曰汝之家嫡可必
號曰大鶴主翁曰是非非常事誰所諭耶再告之曰衛
汝之者地藏菩薩也主翁涕泗叵駐悲喜交流遂如
教敕之云
鶴林山麓久國之里有一獠夫常陵此嶺徑峻赴阻
坐待麋鹿弓不虛發夫不苟害洞心達腋應聲而倒

一日行而待之勿有小蛙躍而入井一蛇追及輒吞
噉之須臾蝮蛇踵至嚙彼蛇也獠夫自省於戲物固
相累二類相召我何為者乎哉何不謂顧即時空中
有聲曰好商量獠夫即棄弧矢惶怖走還止殺不作
之者數月陶染之性正遽而改亦復如先少頃鹿至
發箭貫胸鹿則帶鏃速去搜蹤隨往其迹隨遠遂至
此寺玉殿闢開所中之箭在像之胸獠夫叩頭自悔
先罪難染為僧持念終身箭鏃之癩痕古已久矣獠
人之塚墓今見存焉誠惟大悲聖者酬往昔所發之
大誓救末世濁亂之重厄其猶病則遊戲諸地獄大

悲代受苦利益方術無可稱計蝮蛇之妙巧鹿獸之
善權嗚呼奇哉
鶴敷地里編戶民入於斯林偷竊取其材其人即日
受病身心惱亂且自語曰我之為誰鶴林寺之地藏
菩薩也此人無有成勛志則盜竊其罪極重宜加嚴
殛傍人曰乞遭若怨須使改悔前非必永遏絕且復
雖言盈把之木不可足償我而報之曰諾其患即日
復本則植檜木數株今猶見在右之応迹唯記觸目
之事傳聞事蹟實雖百數且置不錄

一日行而待之勿有小蛙躍而入井一蛇追及輒吞
噉之須臾蝮蛇踵至嚙彼蛇也獠夫自省於戲物固
相累二類相召我何為者乎哉何不謂顧即時空中
有聲曰好商量獠夫即棄弧矢惶怖走還止殺不作
之者數月陶染之性正遽而改亦復如先少頃鹿至
發箭貫胸鹿則帶鏃速去搜蹤隨往其迹隨遠遂至
此寺玉殿闢開所中之箭在像之胸獠夫叩頭自悔
先罪難染為僧持念終身箭鏃之癩痕古已久矣獠
人之塚墓今見存焉誠惟大悲聖者酬往昔所發之
大誓救末世濁亂之重厄其猶病則遊戲諸地獄大

悲代受苦利益方術無可稱計蝮蛇之妙巧鹿獸之
善權嗚呼奇哉
鶴敷地里編戶民入於斯林偷竊取其材其人即日
受病身心惱亂且自語曰我之為誰鶴林寺之地藏
菩薩也此人無有成勛志則盜竊其罪極重宜加嚴
殛傍人曰乞遭若怨須使改悔前非必永遏絕且復
雖言盈把之木不可足償我而報之曰諾其患即日
復本則植檜木數株今猶見在右之応迹唯記觸目
之事傳聞事蹟實雖百數且置不錄

延寶元癸丑年行年三十五

播之美葱郡吉川谷吉祥寺記

古人有言曰夏蟲不可以語冰者篤於時也寔惟物理之否泰凡無有常也夫無有常則我法之通塞未可能知也未可能知則不易語於庸人也播之美葱縣有一神區山圍三面若春葩若秋楓滿林成繡竹當半牕乍午雨乍曉雪入枕破夢澗泉之濺玉兮廣長舌之恒轉法輪也山色之凝碧兮清淨身常現妙相也奇巖鍾秀是則玄聖之攸遊化攢峯占幽奚翅

延寶元癸丑年行年三十五

播之美葱郡吉川谷吉祥寺記

古人有言曰夏蟲不可以語冰者篤於時也寔惟物理之否泰凡無有常也夫無有常則我法之通塞未可能知也未可能知則不易語於庸人也播之美葱縣有一神區山圍三面若春葩若秋楓滿林成繡竹當半牕乍午雨乍曉雪入枕破夢澗泉之濺玉兮廣長舌之恒轉法輪也山色之凝碧兮清淨身常現妙相也奇巖鍾秀是則玄聖之攸遊化攢峯占幽奚翅

靈仙之所窟宅焉初西竺之耆闍崛山有一仙苑五百持明仙住之修金剛摩尼祕軌皆悉得道遊歷諸刹利樂群生神用難思壽無量載法道仙人者其一也一日馭雲入吾日域下播州印南郡法花山于時溪谷出五色光道以為靈宇居此常誦法華修密觀所持道具千手大悲銅像佛舍利寶鉢而已餘無長物一時多聞天王來下語道曰大仙久棲遲此我當擁護正法鎮撫邦國孝德皇帝五年五月上弗豫藥餌不效乃詔左僕射阿部倉內召道加護道入宮持念玉體平復九鄉稽顙六宮羅拜止宮七日弘演真

靈仙之所窟宅焉初西竺之耆闍崛山有一仙苑五百持明仙住之修金剛摩尼祕軌皆悉得道遊歷諸刹利樂群生神用難思壽無量載法道仙人者其一也一日馭雲入吾日域下播州印南郡法花山于時溪谷出五色光道以為靈宇居此常誦法華修密觀所持道具千手大悲銅像佛舍利寶鉢而已餘無長物一時多聞天王來下語道曰大仙久棲遲此我當擁護正法鎮撫邦國孝德皇帝五年五月上弗豫藥餌不效乃詔左僕射阿部倉內召道加護道入宮持念玉體平復九鄉稽顙六宮羅拜止宮七日弘演真

乘、與旨、君、臣、歎、稱、因、之、設、無、遮、會、道、歸、山、此、年、救、於、山、中、建、大、殿、安、所、持、觀、自、在、銅、像、及、佛、舍、利、寶、鉢、白、雉、元、年、九、月、落、成、上、幸、寺、慶、讚、始、本、朝、重、神、輕、佛、至、道、之、唱、導、天、下、翕、然、反、之、宮、中、大、藏、會、白、雉、二、月、請、二、千、沙、門、轉、大、僧、尼、宮、齋、同、三、年、十、二、月、普、會、藏、于、宮、中、夜、然、二、千、燈、僧、尼、于、宮、中、設、又、燒、燈、皆、道、之、論、化、也、道、居、本、山、數、十、祀、一、日、過、吉、川、此、處、異、光、炳、煥、就、而、見、之、多、聞、天、金、像、在、椶、櫚、之、下、道、憶、前、約、初、營、大、殿、安、之、又、構、講、堂、奉、藥、師、如、來、十、一、面、觀、自、在、菩、薩、毘、沙、門、天、像、皆、上、之、所、資、施、也、爾、來、門、樓、支、提、相、繼、而、興、院、宇、二、十、而、餘、之、一、矣

春日神祠六社權現作鎮於茲方今象教陵夷殿閣敗壞無可足觀之者向之所謂通塞有時何必驚歎予恐後世失其傳為之而書

延寶三乙卯年行年三十七

和入元旦

陋巷春來經過少柴扉寂寞絕塵埃山人笑殺世人開味酒痛狂三百杯

乘ノ與旨ノ君臣歎稱、因之設ク無遮會ヲ道歸山此年、救シテ於山中ニ建テ大殿ヲ安メ所持ノ觀自在ノ銅像及佛舍利寶鉢ヲ白雉元年九月ニ落成ス、上幸シテ寺慶讚ス始メ本朝重シク神輕ニスレ、仏至道ノ唱導ニ天下翕然トシテ反ス之宮中ノ大藏會、白雉二月請ニ千沙門轉大僧尼宮齋、同三年十二月普會、藏于宮中夜然ニ千燈、僧尼于宮中設、又燒燈、皆道ノ論化也、道居ルコト本山ニ數十祀一カハ、一日過吉川、此處異光炳煥、就テ而見ルニ之多聞天ノ金像椶櫚之下ニ道憶前約ヲ初營テ大殿ヲ安メ之、又構テ講堂ヲ奉メ藥師如來十一面觀自在菩薩毘沙門天ノ像ヲ皆、上之所ニ資シテ施スル也、爾來門樓支提相繼テ而興ル院宇二十ニシテ、而余セリコト一ヲ矣

春日神祠六社權現作鎮於茲方今象教陵夷殿閣敗壞無可足觀之者向之所謂通塞有時何必驚歎予恐後世失其傳為之而書

延寶三乙卯年行年三十七

和入元旦

陋巷春來經過少柴扉寂寞絕塵埃山人笑殺世人開味酒痛狂三百杯

圓忍律師行狀并贊行狀載于別卷

滔々法海魚鼈於物中有飛龍其号圓忍託緣北陸紹風南印且信且解克勤克進其一受學毘尼累載琢磨安心也道豈辭轆軻四量四攝六度六和洽濟有截能接僧伽其二無生劍刃慈悲甲冑慧與戒定為之左右觀此冒地持彼密呪廻光千古万世誰又其三舉其遺緒煽其餘炎律幢密綱維轄維鈴八部欽仰四眾具瞻區々小子欽贊芥纖

菩薩戒諺註自叙

第一義天可階而升之者其惟菩提心乎發菩提心

以戒為要誓則根株堅固必不可動是故顯言心地戒密言三昧耶皆以為始步始步為鴻基豈易言耶舍那創誦能仁傳唱寔有以乎延寶乙卯之冬予講心地戒于鄉粉之常樂寺道俗靡風希受持之者夥矣偶南紀慈光精舍玄忍大德有故見過華戶幸讀說戒之前後凡六會新受菩薩五十有八矣復弊邑之一盛事也是非予唇吻之使然誠心地戒德之所為身因而為一信士就太賢古迹揭其戒題加俚諺於其下將使秉持也有新學菩薩諱性寂者覽之曰斯實初志南針也請壽於梓有啟後來之蒙我幹緣

圓忍律師行狀并贊行狀載于別卷

滔々法海魚鼈於物中有飛龍其号圓忍託緣北陸紹風南印且信且解克勤克進其一受學毘尼累載琢磨安心也道豈辭轆軻四量四攝六度六和洽濟有截能接僧伽其二無生劍刃慈悲甲冑慧與戒定為之左右觀此冒地持彼密呪廻光千古万世誰又其三舉其遺緒煽其餘炎律幢密綱維轄維鈴八部欽仰四眾具瞻區々小子欽贊芥纖

菩薩戒諺註自叙

第一義天可階而升之者其惟菩提心乎發菩提心

以戒為要誓則根株堅固必不可動是故顯言心地戒密言三昧耶皆以為始步始步為鴻基豈易言耶舍那創誦能仁傳唱寔有以乎延寶乙卯之冬予講心地戒于鄉粉之常樂寺道俗靡風希受持之者夥矣偶南紀慈光精舍玄忍大德有故見過華戶幸讀說戒之前後凡六會新受菩薩五十有八矣復弊邑之一盛事也是非予唇吻之使然誠心地戒德之所為身因而為一信士就太賢古迹揭其戒題加俚諺於其下將使秉持也有新學菩薩諱性寂者覽之曰斯實初志南針也請壽於梓有啟後來之蒙我幹緣

之子其努力予不得止重撥群賢之遺言聊下注脚
是非呈博達之緇流惟導庸愚之素士耳矧復淺見
膚學紕繆定多後覽者有感乎斯文添削正之則不
肖之者也延寶第三龍集乙卯季冬初七洛西般若
密寺菩薩戒弟子淨嚴書手粉榆之如晦菴

延寶四丙辰年行年三十八

越中芹谷山千光寺銅鐘銘

越之中州芹谷之裏中有梵宮一名千光寺新鑄鉅鐘

索予筆記非才非敢映顏銘字其一輪環三界沫池
五陰驚之覺之無過梵音梵音西震遺響東臨蔚彼
扶桑枝茂蔭深其二聖武御寓天平紀元圓德創址
觀在迹存普眼洽矚甲利獨尊慈航稠載法泉濟源
其三兵燹構禍一朝而化三尊易地九乳聲嘖纒舉
其廢茨蓋竹架猶恨未有寸莛時夜其四篤信之士
其姓□氏捨金擇銅付之鑪錘良工克就非弁鐘也
非侈鐘也鼉吼蛟鳴信善信美其五百億素怛五時
達磨一音演唱大千齊和其醉忽醒其寢咸叱願諸
聽者同證遮那其六

之子其努力予不得止重撥群賢之遺言聊下注脚
是非呈博達之緇流惟導庸愚之素士耳矧復淺見
膚學紕繆定多後覽者有感乎斯文添削正之則不
肖之者也延寶第三龍集乙卯季冬初七洛西般若
密寺菩薩戒弟子淨嚴書手粉榆之如晦菴

延寶四丙辰年行年三十八

越中芹谷山千光寺銅鐘銘

越之中州芹谷之裏中有梵宮一名千光寺新鑄鉅鐘

索予筆記非才非敢映顏銘字其一輪環三界沫池
五陰驚之覺之無過梵音梵音西震遺響東臨蔚彼
扶桑枝茂蔭深其二聖武御寓天平紀元圓德創址
觀在迹存普眼洽矚甲利獨尊慈航稠載法泉濟源
其三兵燹構禍一朝而化三尊易地九乳聲嘖纒舉
其廢茨蓋竹架猶恨未有寸莛時夜其四篤信之士
其姓□氏捨金擇銅付之鑪錘良工克就非弁鐘也
非侈鐘也鼉吼蛟鳴信善信美其五百億素怛五時
達磨一音演唱大千齊和其醉忽醒其寢咸叱願諸
聽者同證遮那其六

高山早春

高山寺裏始逢春，厨庫蕭然物外身。傳暖東風衝牖入，韶光不隔林下貧。

龍泉寺銅鐘銘

内州石川郡龍泉寺，則上宮皇子命蘇我馬子攸創營之也。背崇嶺，面巨壑，清溪走其足，脩竹縈其腰。青松万株，冬夏不改其觀。白雲一片，日夕似伴其寂。寔修禪之攸依，又攝心之勝窟也。寺傍有池中，有惡龍暴虐，巨禦數損稼穡。時害僧人，蘇氏不忍，聞之，束帶嚴整，奮威現，曠睨池而立。凡七晝夜，龍變人形而言，

高山早春

高山寺裏始逢春，厨庫蕭然物外身。傳暖東風衝牖入，韶光不隔林下貧。

龍泉寺銅鐘銘

内州石川郡龍泉寺，則上宮皇子命蘇我馬子攸創營之也。背崇嶺，面巨壑，清溪走其足，脩竹縈其腰。青松万株，冬夏不改其觀。白雲一片，日夕似伴其寂。寔修禪之攸依，又攝心之勝窟也。寺傍有池中，有惡龍暴虐，巨禦數損稼穡。時害僧人，蘇氏不忍，聞之，束帶嚴整，奮威現，曠睨池而立。凡七晝夜，龍變人形而言，

言我見公之威肅，殊甚惶怖。言畢，冲虚而去。厥後四

邊二三里許，水忽枯竭。農困力耕，人勞洞酌。空海大師偶經于此，憇衆僧之渴，泉慨而殺之。置潤石於善女龍，使主此池，自余以降，愆陽作虐，煎沙鑠石，野青草，民且菜色，效誠祈求，無不立雨。是龍泉之所以為稱也。而紺宇並覺，緇徒踵踵，無愧當時也。泉濱境浦，鉅商八丈氏，市右衛門尉者，篤信之徒也。憤地靈，寺古蒲牢之無，苦晨昏之久矣。遂命覺氏，鑄昆吾銅，擬祇洹，模不日而成。因而責子，以銘其上，不得敢辭。又手而言曰：夫黃鐘始導，則二六之律咸應。青銅一

言我見公之威肅，殊甚惶怖。言畢，冲虚而去。厥後四

邊二三里許，水忽枯竭。農困力耕，人勞洞酌。空海大師偶經于此，憇衆僧之渴，泉慨而殺之。置潤石於善女龍，使主此池，自余以降，愆陽作虐，煎沙鑠石，野青草，民且菜色，效誠祈求，無不立雨。是龍泉之所以為稱也。而紺宇並覺，緇徒踵踵，無愧當時也。泉濱境浦，鉅商八丈氏，市右衛門尉者，篤信之徒也。憤地靈，寺古蒲牢之無，告晨昏之久矣。遂命覺氏，鑄昆吾銅，擬祇洹，模不日而成。因而責子，以銘其上，不得敢辭。又手而言曰：夫黃鐘始導，則二六之律咸應。青銅一

擊^キ則大千之衆悉集^ス是故^ニ西乾之十方斤告沙界會^ニ
實^ニ聖^ニ東漢之二斛節^ニ八音^ヲ和邦國^ヲ移^レ風易^ヲ俗^ヲ五倫之
禮^ニ所^ニ由^レ而序^{フル}播^レ德^ヲ通^レ靈^ニ三途^ノ厄^ヲ攸^ニ聞^レ而脫^ル也^ニ廻^ニ之^ニ冥
福^ニ施^ス世教^ヲ其功^ヲ非^レ少^キ今捨^ニ淨財^ヲ成^ニ鐘^ヲ以^テ斯^ノ鴻業^ヲ
洽^ニ彼^ニ幽府^ニ然則物故信士宗勿祐^ニ西淨雲宗和宗春
淨玄淨拜休念道休道祐等信女妙德妙勸妙圓妙
心妙圓妙意等長^ク出^テ三有^ノ之苦輪海^ヲ速^ニ登^ニ四身^ノ之摩
尼殿^ニ現存^ニ優婆塞乘^ニ道喜優婆夷^ニ勝妙西^ニ比^ニ壽
松椿^ニ競^ニ富^ヲ朱頓^ニ乃^ニ至^ニ十方^ノ三際^ノ澤被^ニ無疆^ニ乃^ニ為^レ銘^曰
人名^ニ八丈^ノ寺^ハ則龍泉林壑^ニ勝^ヲ誠信守^レ堅^キ則告^ニ鑪人^ニ

成規^ヲ團圓^ヲ厚薄^中程^ヲ侈^ヲ弁^不偏^ナ近^ク亮^ク遠^ク彰^ル谷響^キ風傳^フ
攪^キ無明^ノ夢^ヲ駭^カ長夜^ノ眠^ヲ福^ヲ覃^ニ九族^ニ沢流^ニ大千^ニ永劫^ニ不^レ朽
祈祐^無邊^ニ延寶四年九月十六日密乘末裔淨嚴欽
識

延寶五丁巳年 行年三十九

延寶五年冬閏十有二月廿三日讚之鹽飽牛頭山
極^ニ密^ノ寺^ノ住持^有譽^蘭梨^因大檀^主宗^心信男^之施^ニ淨
財^ヲ鑄^ニ一巨鐘^ヲ懸^ニ之^ニ高樓^ニ因^テ責^ニ銘^ヲ予^ニ不^レ得^ニ敢^テ辭^一則^ニ為^レ銘

擊^キ則大千之衆悉集^ス是故^ニ西乾之十方斤告沙界會^ニ
實^ニ聖^ニ東漢之二斛節^ニ八音^ヲ和邦國^ヲ移^レ風易^ヲ俗^ヲ五倫之
禮^ニ所^ニ由^レ而序^{フル}播^レ德^ヲ通^レ靈^ニ三途^ノ厄^ヲ攸^ニ聞^レ而脫^ル也^ニ廻^ニ之^ニ冥
福^ニ施^ス世教^ヲ其功^ヲ非^レ少^キ今捨^ニ淨財^ヲ成^ニ鐘^ヲ以^テ斯^ノ鴻業^ヲ
洽^ニ彼^ニ幽府^ニ然則物故信士宗勿祐^ニ西淨雲宗和宗春
淨玄淨拜休念道休道祐等信女妙德妙勸妙圓妙
心妙圓妙意等長^ク出^テ三有^ノ之苦輪海^ヲ速^ニ登^ニ四身^ノ之摩
尼殿^ニ現存^ニ優婆塞乘^ニ道喜優婆夷^ニ勝妙西^ニ比^ニ壽
松椿^ニ競^ニ富^ヲ朱頓^ニ乃^ニ至^ニ十方^ノ三際^ノ澤被^ニ無疆^ニ乃^ニ為^レ銘^曰
人名^ニ八丈^ノ寺^ハ則龍泉林壑^ニ勝^ヲ誠信守^レ堅^キ則告^ニ鑪人^ニ

成^レ規^ヲ團圓^ヲ厚薄^中程^ヲ侈^ヲ弁^不偏^ナ近^ク亮^ク遠^ク彰^ル谷響^キ風傳^フ
攪^キ無明^ノ夢^ヲ駭^カ長夜^ノ眠^ヲ福^ヲ覃^ニ九族^ニ沢流^ニ大千^ニ永劫^ニ不^レ朽
祈祐^無邊^ニ延寶四年九月十六日密乘末裔淨嚴欽
識

延寶五丁巳年 行年三十九

延寶五年冬閏十有二月廿三日讚之塩飽牛頭山
極^ニ密^ノ寺^ノ住持^有譽^蘭梨^因大檀^主宗^心信男^之施^ニ淨
財^ヲ鑄^ニ一巨鐘^ヲ懸^ニ之^ニ高樓^ニ因^テ責^ニ銘^ヲ予^ニ不^レ得^ニ敢^テ辭^一則^ニ為^レ銘

日牛頭山裏有阿蘭拏水媚林古境邃徑斜紺殿衝
漢朱樓出霞上方鞞熾寂無諠譁神足攸遊靈仙爰
託院勝長德寺效極樂慈布密雲德普祕沢化物成
器比之蒙籥德香遐熏患不爾思鑄鉅鯨戒警緇
潤洽鬼畜救極難獄以之攬懷太懇太篤牛島富商
素累万金家標長喜人名宗心助彼志願周此德音
凡其丹棘誠至誓深命之梟氏制度告全利覃沙界聲
駭大千益廣如空不竭如泉孝妣適庶福祿無邊河
陽寶輪苾芻淨嚴欽誌

延寶六戊午年行年四十一

寶輪早春

遮莫門門柳色加火爐對坐念瑜伽村翁田媪賀春
苦忙裏那知鬢條皓

和州青龍寺銅鐘銘

延寶六年歲次著雍敦牂孟春之月大和州宇知郡
宇野鄉神足山僧來索銘銅鐘不得敢辭乃援筆曰
馬臺之洲大和之國葛嶺之南倭川之北中有玄區
碧殿有伽伽金剛儼儀民生飽德大士垂化祠宇相雙

日牛頭山ノ裏ニ有阿蘭拏ニ水媚ヒ林古リ境邃ク徑斜紺殿衝

漢朱樓出レ霞上方鞞熾寂無諠譁神足ノ攸遊靈仙爰ニ

託院勝長德寺效極樂慈布密雲德普祕沢化物成ス

器比之蒙籥德香遐熏患不爾思鑄鉅鯨戒警緇

潤洽鬼畜救極難獄以之攬懷太懇太篤牛島富商

素累万金家標長喜人名宗心助彼志願周此德音

凡其丹棘誠至誓深命之梟氏制度告全利覃沙界聲

駭大千益廣如空不竭如泉孝妣適庶福祿無邊河

陽寶輪苾芻淨嚴欽誌

延寶六戊午年行年四十

寶輪早春

遮莫門門柳色ノ加火爐對坐念瑜伽村翁田媪賀春
苦忙裏那知鬢條皓

和州青龍寺銅鐘銘

延寶六年歲次著雍敦牂孟春之月大和州宇知郡
宇野鄉神足山僧來索銘銅鐘不得敢辭乃援筆曰
馬臺之洲大和之國葛嶺之南倭川之北中有玄區
碧殿有伽伽金剛儼儀民生飽德大士垂化祠宇相雙

妙應異途經國鎮邦山留神足院標法幢姦兇遠辟
翹翹曰降泉流響曲松檜森駢駭客凝眺遊子駐轡
銅鐘千鈞脫鑪成器大千警衆三轉呈瑞汎彼六舟
拯溺生殷其九乳去濁就清鳴也能鳴不平鳴冀
矣導誘破雙龍首河陽寶輪苾芻淨嚴謹銘

播陽金藏寺記

播陽多可郡松先莊有山岌然而廻出衆峯之者名
曰金藏焉聞諸先志曰昔代瑠璃界主醫王善逝慨
像末之昏濁哀季運之頽廢降迹於歸見山今在金藏之坤吳也佛頭現此光明廣大輝赫十方海中鱗類見光

驚散浦人愁于釣漁之不利詣于熊野神祠而禱之
一夕夢神騎白馬西之播陽云云熊野靈神至歸見
山信宿之際禦於魑魅營于佛殿天工之奇非尋常
之所測誠惟和光利物靈神感德之所致也而后佛
頭又移于良嶽則今金藏山也熊神又隨艾夷榛莽以助佛
化彼此經過之際每騎白馬瀑布之巖猶貽馬足之
痕笠取之嶺今餘神遊之蹤也夫此峯也峯巒爭奇
巖岫攢秀蒼翠相繆空碧曰接信為玄聖之攸依故
役小角覽斯幽勝練行克勤菅原行基尋佛光而遙
來問里人皆曰尔來如此不曉其由基則攀葛援

妙應異途經國鎮邦山留神足院標法幢姦兇遠辟

翹翹曰降泉流響曲松檜森駢駭客凝眺遊子駐轡

銅鐘千鈞脫鑪成器大千警衆三轉呈瑞汎彼六舟

拯溺生殷其九乳去濁就清鳴也能鳴不平鳴冀

矣導誘破雙龍首河陽寶輪苾芻淨嚴謹銘

播陽金藏寺記

播陽多可郡松井莊有山岌然而廻出衆峯之者名
曰金藏焉聞諸先志曰昔代瑠璃界主醫王善逝慨
像末之昏濁哀季運之頽廢降迹於歸見山今在金藏之坤吳也佛頭現此光明廣大輝赫十方海中鱗類見光

驚散浦人愁于釣漁之不利詣于熊野神祠而禱之

一夕夢神騎白馬西之播陽云云熊野靈神至歸見

山信宿之際禦於魑魅營于佛殿天工之奇非尋常

之所測誠惟和光利物靈神感德之所致也而后佛

頭又移于良嶽則今金藏山也熊神又隨艾夷榛莽以助佛

化彼此經過之際每騎白馬瀑布之巖猶貽馬足之

痕笠取之嶺今餘神遊之蹤也夫此峯也峯巒爭奇

巖岫攢秀蒼翠相繆空碧曰接信為玄聖之攸依故

役小角覽斯幽勝練行克勤菅原行基尋佛光而遙

來問里人皆曰尔來如此不曉其由基則攀葛援

迴至佛頭之處始見其寶靈耀煥赫鳥瑟高顯基悲
喜交集則刻造佛軀安佛頭亦營殿宇妥帖布置其
後睿嶽圓仁慈覺大師遙食風德竭來數回又興營構自
明寺來自云目云爾云已降碩德名緇連蹤躡象教繁衍化
拜之育群生予恨王候之不遊怒勝崛之無記故畧舉其
梗概耳熟惟藥師如來者二六弘願救脫像法轉時
之衆庶七千藥又摧滅煩惱結使羣醜挑七層輪燈
則七難瞬息消除造五色綵幡則五苦須臾解脫若
專念稱讚則已盡之壽猶得增益薄祐短命之屬得
大依怙又至心歸信則九種之橫未然辟除重垢天

殤之類作善護助況復一經其耳之小業被衆病悉
除之鉅報無醫無藥之族蓋仰大願大誓之益凡其
妙用山毫地墨所不克記靈化之深福地之勝人法
兩絕是所予之憤排也故書

讚州神光寺銅鐘銘

讚州那珂郡立石浦寶珠山神光寺也者讚陽之甲
刹而八幡大菩薩和光之地無量壽如來降靈之岨
也英檀池路左兵衛尉竭篤信傾淨財鑄彼鉅鯨架
之高閣拯羣生之苦酷致四德之圓常現住主盟宥
筭寄冥鴻之廻來責充免之漫染貧道禱散不幸遭

迴至佛頭之處始見其寶靈耀煥赫鳥瑟高顯基悲
喜交集則刻造佛軀安佛頭亦營殿宇妥帖布置其
後睿嶽圓仁慈覺大師遙食風德竭來數回又興營構自
明寺來自云目云爾云已降碩德名緇連蹤躡象教繁衍化
拜之育群生予恨王候之不遊怒勝崛之無記故畧舉其
梗概耳熟惟藥師如來者二六弘願救脫像法轉時
之衆庶七千藥又摧滅煩惱結使羣醜挑七層輪燈
則七難瞬息消除造五色綵幡則五苦須臾解脫若
專念稱讚則已盡之壽猶得增益薄祐短命之屬得
大依怙又至心歸信則九種之橫未然辟除重垢天

殤之類作善護助況復一經其耳之小業被衆病悉
除之鉅報無醫無藥之族蓋仰大願大誓之益凡其
妙用山毫地墨所不克記靈化之深福地之勝人法
兩絕是所予之憤排也故書

讚州神光寺銅鐘銘

讚州那珂郡立石浦寶珠山神光寺也者讚陽之甲
刹而八幡大菩薩和光之地無量壽如來降靈之岨
也英檀池路左兵衛尉竭篤信傾淨財鑄彼鉅鯨架
之高閣拯羣生之苦酷致四德之圓常現住主盟宥
筭寄冥鴻之廻來責充免之漫染貧道禱散不幸遭

延富兩辰載
 子孟之世日
 樓州聖師壇
 飽食居上土
 宗珠山神光
 自持種大僧
 阿家利安
 聖位
 入一河其四
 肥之前
 肥州寶樹山
 圓城寺尊祐法印影贊
 幼而敏捷長

物氏子康年
 泉州明之任
 治之荷荷
 豐收次
 歸真茫茫
 溺子失船筏
 林落秋深
 晚風愁
 朱樓紺殿
 空突兀
 備中西阿地
 遍照院修造
 幹緣疏
 戊午三月廿
 六日於住吉
 院作
 夫修行者所依之處
 有二種上
 也者謂樹下露地
 及與塚間下也者
 則阿蘭若處僧伽藍
 摩訶託身茲練
 心除煩助修長道
 是故振古暨今
 建石室關金地營

枉不得敢辭乃為銘曰梵宮有恤于彼讚陽福庭卜
 食幾多百霜法寶珠璨赫其神光九品崇臺八幡占
 場其一風吹日煦雲行雨施懷夫周道厥沢如砥蠶
 爾有生游泳德涯頌聲溢耳八達九達其二淨信之
 士其姓池路載諮覓氏開鑪鎔鑄妙工自天應規合
 度清音攪眠響晨告暮暮其三樵蘇猜獅釣漁錯鼉徹
 幽通冥驚鬼降魔會集索多招徠徠僧伽冀諸合靈同
 入一河其四
 肥之前州寶樹山圓城寺尊祐法印影贊
 幼而敏捷長

而博聞窮曉窮文字詩學文窺奧該釋李施化洽綯
 素開基創蓮花興廢榮寶樹尋究小野幽趣行到
 沢深隈剩梵書雅致實為密門巨魁誰料一旦歛
 歸真茫茫溺子失船筏林落秋深晚風愁朱樓紺殿
 空突兀
 備中西阿地遍照院修造幹緣疏
 戊午三月廿六日於住吉
 院作
 夫修行者所依之處有二種上
 也者謂樹下露地
 及與塚間下也者則阿蘭若處僧伽藍摩訶託身茲練
 心除煩助修長道是故振古暨今建石室關金地營

精舍、初禪窟、職、而由斯于茲當寺、則

後三條院勅願延久年中草創之寺、弥陀善逝有緣
利生之地也、誅茅已來、六百餘歲、碩德高行、接踵
止、佛塔僧舍、垂棟競興、四來還沓、法雨之潤、日洽
三密紹隆、佛日之照、恒煥雖今、法運之流、塞不齊物象
之興廢、易地頃年、水也壬癸、荐禍殿閣、向止見聞、歎
嗟寄寓、失披因茲、小僧效蚊蚋、力勵燕雀、志不擇銖
粒、周扣緇素、將遂大業、以普鉅益、伏冀十方、七女四
遠、貴賤互相勸獎、同共資助、使遂修治之功、以裨息
心之道、若余鴻福不盡、廣覃沙界、正教無絕、遠窮塵

劫凡厥有緣、現存壽域、後登覺蓮、欽疏

泉州補陀洛山記堅百五十步、橫百八十餘步、三月二十八日於大坂旅館作

泉州大鳥郡和田谷補陀洛山放光寺也、則行基菩
薩卜食之地、空海和尚修練之場也、峯巒攢青、自標
海岸孤絕之勢、澗水泛綠、似示法流不竭之儀、堅牢
地神大辯功德念本誓、而鎮護金剛藏王天照太神
崇家教、以藩衛後、則寶篋印塔婆收納一切如來心
祕密前、則阿弥陀種覺攝取十方世界念佛人、經塚
西堆、則無明妄想蕩于一禮之額、山門南啓、則有德
導師容於四來之賓、觀在大士曩昔垂迹地藏薩埵

精舍、初禪窟、職、而由斯于茲當寺、則

後三條院勅願延久年中草創之寺、弥陀善逝有緣
利生之地也、誅茅已來、六百餘歲、碩德高行、接踵
止、佛塔僧舍、垂棟競興、四來還沓、法雨之潤、日洽
三密紹隆、佛日之照、恒煥雖今、法運之流、塞不齊物象
之興廢、易地頃年、水也壬癸、荐禍殿閣、向止見聞、歎
嗟寄寓、失披因茲、小僧效蚊蚋、力勵燕雀、志不擇銖
粒、周扣緇素、將遂大業、以普鉅益、伏冀十方、七女四
遠、貴賤互相勸獎、同共資助、使遂修治之功、以裨息
心之道、若余鴻福不盡、廣覃沙界、正教無絕、遠窮塵

劫凡厥有緣、現存壽域、後登覺蓮、欽疏

泉州補陀洛山記堅百五十步、橫百八十餘步、三月二十八日於大坂旅館作

泉州大鳥郡和田谷補陀洛山放光寺也、則行基菩
薩卜食之地、空海和尚修練之場也、峯巒攢青、自標
海岸孤絕之勢、澗水泛綠、似示法流不竭之儀、堅牢
地神大辯功德念本誓、而鎮護金剛藏王天照太神
崇家教、以藩衛後、則寶篋印塔婆收納一切如來心
祕密前、則阿弥陀種覺攝取十方世界念佛人、經塚
西堆、則無明妄想蕩于一禮之額、山門南啓、則有德
導師容於四來之賓、觀在大士曩昔垂迹地藏薩埵

蓋天蓋地德何窮ノ名稱普聞ク，ノ方石確欲識靈心ノ，ノ攸窟宅ノ元來三曜朗長空ニ。

讚陽善通寺逢中秋八月十五日

方石騷人去不還返也，ノ冰輪歲歲為誰圓此，ノ夕殊多興樽酒何須苦相牽ナ。

書上一絕贈宥謙師引同十六日

昨宵長天雲捲清光殊絕，ノ僑居寂寥興趣惟夥持誦，ノ之餘偶得一兩句，ノ今朝夢回復廢成之，ノ以為一絕，ノ夫吾毘尼之中有不涉文筆之明誠，ノ雖然遇之勝致則不覺吐露，ノ是生平詩癖之使然也，ノ諒惟足下高才

超軼雅思風馳宜以鎚砧予之小器請勿罪僭越ノ，ノ懼悚懼伏巧運斤

再次前韻重簡宥謙師兼和謙師俳偕之韻末，ノ昨見和鄙韻且又蒙示高詠光彩輝發拔羣絕倫，ノ自非慈顧之深焉至于茲哉多謝多謝不肖不言，ノ詩之久荆棘塞路蕪穢難治雖尔恩賜之重理不得止再踵前韻以呈梧右又光誦之韻末所謂成圓之器是夫規之者耶不肖不揆機線叨塵其礎勿罪惟幸切冀郢斤開封驚見子之還句句含光冰玉圓勿怪詩情時瞥起朝來也被正風牽

蓋天蓋地德何窮ノ名稱普聞ク，ノ方石雄欲識靈心ノ，ノ攸窟宅ノ元來三曜朗長空ニ。

讚陽善通寺逢中秋八月十五日

方石騷人去不還返也，ノ冰輪歲歲為誰圓此，ノ夕殊多興樽酒何須苦相牽ナ。

書上一絕贈宥謙師引同十六日

昨宵長天雲捲清光殊絕僑居寂寥興趣惟夥持誦，ノ之餘偶得一兩句今朝夢回復廢成之以為一絕，ノ夫吾毘尼之中有不涉文筆之明誠，ノ雖然遇之勝致則不覺吐露，ノ是生平詩癖之使然也，ノ諒惟足下高才

超軼雅思風馳宜以鎚砧予之小器請勿罪僭越ノ，ノ懼悚懼伏巧運斤

再次前韻重簡宥謙師兼和謙師俳偕之韻末，ノ昨見和鄙韻且又蒙示高詠光彩輝發拔羣絕倫，ノ自非慈顧之深焉至于茲哉多謝多謝不肖不言，ノ詩之久荆棘塞路蕪穢難治雖尔恩賜之重理不得止再踵前韻以呈梧右又光誦之韻末所謂成圓之器是夫規之者耶不肖不揆機線叨塵其礎勿罪惟幸切冀郢斤開封驚見子之還句句含光冰玉圓勿怪詩情時瞥起朝來也被正風牽

和俳偕韻末、三三三十月ハ心ノブン

應用無方興、此衰見來、和氣滿門楯講、君不借禪餘力、陶冶後生成淨規、

一寶道生號

是歲季秋之末寓於屋島之蘭若、有一信士自高松城而來也、曰我企望於師之久矣、頃日聞飛錫于茲、歡喜無量、粵去十三之夕夢、從于師受法號、既而得一軸書披而閱之、其首曰一寶焉、覺而惟記此兩字、餘皆失也、今日幸陪法席、冀賜法號矣、予告之曰夫一寶者何、謂一心也、古德曰乾坤之內宇宙之間中

有一寶祕在形山、又大毘盧遮那經曰淨菩提心如意寶、滿世出世勝、亦有除疑究竟證三昧、自利利他、因是生凡心、有染淨、所謂一寶之心也、者非染心也、則淨心也、淨心者何、無相平等一如之心也、此一如之心、則非二物我、泯彼此、離憎愛、絕是非、不能得也、故吾佛之設教也、始於戒善、終於實相、梯登之差、漸階之序、壹是皆以、一彼此、為要、物我苟立、則殺戮日生、慈愍消、焉憎愛是存、則竊盜月、作廉潔敗、焉五戒十善、猶尚不得毫釐之存于茲也、復何實相之求耶、請子無必求實相無相之心、而唯泯我之物我、則平

和俳偕韻末、マンマル十月ハ心ノブンマワシ

應用無方興、此衰見來、和氣滿門楯、請君不借禪余力、陶冶後生成淨規、

一寶道生號

是歲季秋之末寓於屋島之蘭若、有一信士自高松城而來也、曰我企望於師之久矣、頃日聞飛錫于茲、歡喜無量、粵去十三之夕夢、從于師受法號、既而得一軸書披而閱之、其首曰一寶焉、覺而惟記此兩字、餘皆失也、今日幸陪法席、冀賜法號矣、予告之曰夫一寶者何、謂一心也、古德曰乾坤之內宇宙之間中

有二寶祕在形山、又大毘盧遮那經曰淨菩提心如意寶、滿世出世勝、亦有除疑究竟證三昧、自利利他、因是生凡心、有染淨、所謂一寶之心也、者非染心也、則淨心也、淨心者何、無相平等一如之心也、此一如之心、則非二物我、泯彼此、離憎愛、絕是非、不能得也、故吾佛之設教也、始於戒善、終於實相、梯登之差、漸階之序、壹是皆以、一彼此、為要、物我苟立、則殺戮日生、慈愍消、焉憎愛是存、則竊盜月、作廉潔敗、焉五戒十善、猶尚不得毫釐之存于茲也、復何實相之求耶、請子無必求實相無相之心、而唯泯我之物我、則平

等之心地可對而致也然乃豈密秘在形山耶觸目
皆無非心之者焉故佛言心外無別法也古稱克念
作聖尚子著力若夫克念到茲則二利之道生一寶
之心成焉復何加乎哉於此以道生為法諱以一寶
表德號云延寶六戊午季冬之吉河陽斗藪沙門釋
淨嚴書于讚國府城坤陬之僑居

延寶七己未年 行年四十一

等ノ心地可坐而致シツ也然レハ乃豈ニ密秘ニ在ルノ形山ニ耶觸レテ目
皆無ニ非レル心ニ之者ニ焉故ニ佛言ク心ノ外ニ無シト別法也古ニ稱ク克念ハ
作レト聖ト尚ハ子著レ力若夫レ克念テ到レハ茲ニ則ニ二利ノ道生シ一寶
之心成焉復何ヲ加ヘン乎哉於レ此以テ道生ヲ為シ法ヲ諱ト以テ一寶ヲ
表スニト德號ヲ云フ延寶六戊午季冬之吉河陽斗藪沙門釋
淨嚴書ス于讚國府城坤陬之僑居

延寶七己未年 行年四十一

延寶八庚申歲 行年四十二

和心印闍黎見題現證菴

居偏紫嶽陰晦迹託蕭森現證清涼樂快舒放曠吟
巖雲飛逸思宵漢豁禪心甌茗飲間味時來慰子衿

豫州三角寺銅鐘銘

豫州宇摩郡三角寺也則弘法大師創建之靈區也
萬治庚子之稔金光寺僧道正慨九乳之絕唱告兆
庶之有信遂鳩淨財附之鳧氏石播得中委之筭簾
而今住持闍黎乘齋貢銘辭于余毫敦逼無辭漫為
銘曰南海之瀕豫之宇摩祕宮有恤模彼補陀坎瞰

延寶八庚申歲 行年四十二

和心印闍黎ノ見レト題セテ現證菴

居ハ偏リ紫嶽ノ陰 晦シテ迹トヲ託ス蕭森ニ 現證清涼ノ樂 快ク舒ク放曠ノ吟
巖雲飛ニシメ逸思ヲ 宵漢豁ニシテ禪心ヲ 甌茗飲ク間味ニ 時來慰ニセヨ子衿ヲ

豫州三角寺銅鐘銘

豫州宇摩ノ郡三角寺ハ也則弘法大師創建ノ靈區也
萬治庚子ノ稔金光寺僧道正慨ニテ九乳ノ絶ヲ唱テ告兆
庶ノ有ルニ信遂ニ鳩ニ淨財ヲ附ニシテ鳧氏ノ石播得レテ中ヲ委ニシテ筭簾ニ
而今住持闍黎乘齋貢ニ銘辭ヲ于余カ毫ニ敦逼無レ辭漫リニ為
銘曰南海ノ瀕豫ノ宇摩ニ祕宮有レ恤模ハ彼ノ補陀ニ坎瞰

滄茫離負嵯峨猿攀綠樹鶴漾碧波其一誰夷厥榛
空海密師架塔構殿繡柱藻栴梅咀播化觀世占基
陶之治之且慈且悲其二多聞斯鎮無動茲宅威炎
實熾魔外喪魄寶坊森萃名緇絡繹乘邁三一星將
九百其三金光禪侶稱曰道正鑄一鉅鐘方沾万生
告暮警曙鼉吼雷轟響震幽冥周集賢聖其四是斯
鴻業洽賑塵墨其益億兆正此四國神鬼攸感天龍
茲翊十方三際福祚無極其五

餞淡州省義閣梨歸故寺

豈料年光如擲梭疎慵今愧首空幡殷勤瓊玖將酬

報荔落瓊珠非琢磨來日碧梧飄露葉去時黃菊傲
霜葩海門秋後風濤惡祝禱歸帆無輾軻
弘法大師畫像贊
閣梨成德重山丘梁棟佛家万世尤不是航深弘密
印茫茫遊子向誰求
山村卜居
此去復焉求山村饒勝遊塵埃無繫礙風月似拘留
岩鳥非真隱巖雲誠好速孰賢勢利不覺雪盈頭
遊金剛寺和友人韻
青松圍古寺此處卜深幽嵐伴晨鐘響景多夕照樓

滄茫離負嵯峨猿攀綠樹鶴漾碧波其一誰夷厥榛
空海密師架塔構殿繡柱藻栴梅咀播化觀世占基
陶之治之且慈且悲其二多聞斯鎮無動茲宅威炎
實熾魔外喪魄寶坊森萃名緇絡繹乘邁三一星將
九百其三金光禪侶稱曰道正鑄一鉅鐘方沾万生
告暮警曙鼉吼雷轟響震幽冥周集賢聖其四是斯
鴻業洽賑塵墨其益億兆正此四國神鬼攸感天龍
茲翊十方三際福祚無極其五

餞淡州省義閣梨歸故寺

豈料年光如擲梭疎慵今愧首空幡殷勤瓊玖將酬

報一セント 荔落タル瓊珠非琢磨セルニ 來リシ日碧梧飄露葉 去時黃菊傲レリ
霜葩ニ 海門秋後風濤惡シ 祝禱歸帆無ランコトヲ 輾軻一
弘法大師画像贊
閣梨成德重山丘ヨリ 梁棟タリ佛家ニ万世ノ尤 不是航深弘密
印一フ 茫茫タル遊子向レテ誰カ求メン
山村卜居
此去復焉求メン 山村饒勝遊 塵埃無ニ繫礙 風月似ニ拘留スルニ
岩鳥非真隱ニ 巖雲誠ニ好速 孰レカ賢勢利一 不覺ニ雪盈頭ニ
遊金剛寺ニ和友人ノ韻
青松圍古寺一 此處卜深幽一 嵐ハ伴フ晨鐘ノ響 景多夕照樓

健毫怪神助、妙句療羈愁、何得陵空翮、翱翔與子遊。

延寶九年酉年 行年四十三

讚州多度郡漫茶羅寺記

夫衆生倒迷、不悟自心之本居、凡庸愚蠢、豈識己身之性德、四流蘇茫、無由問津、三有浩蕩、誰敢歸源、是以世雄能仁曠世、跼蹐悲焰宅之既焚、遙劫策心慘愆塵之久埋、降玉儀於迦夷羅國之中、誕金體于波無優羅叉樹之下、至夫四門出遊、鑿聚沫之條、消三夢呈變、耶輪感三夢、謂天月墮地、牙齒狀之易上、易滅、仙林所住之林、拋簪七室之剃刀、日耀道樹降魔、億兆之勅敵席卷、遂使玉毫散照湛、相海而誘物、金口吐綸、湧辯泉、以隨類扇、仁風乎鹿野、四生之艸無

健毫怪神助、妙句療羈愁、何得陵空翮、翱翔與子遊。

延寶九年辛酉年 行年四十三

讚州多度郡漫茶羅寺記

夫衆生倒迷、不悟自心之本居、凡庸愚蠢、豈識己身之性德、四流蘇茫、無由問津、三有浩蕩、誰敢歸源、是以世雄能仁曠世、跼蹐悲焰宅之既焚、遙劫策心慘愆塵之久埋、降玉儀於迦夷羅國之中、誕金體于波無優羅叉樹之下、至夫四門出遊、鑿聚沫之條、消三夢呈變、耶輪感三夢、謂天月墮地、牙齒狀之易上、易滅、仙林所住之林、拋簪七室之剃刀、日耀道樹降魔、億兆之勅敵席卷、遂使玉毫散照湛、相海而誘物、金口吐綸、湧辯泉、以隨類扇、仁風乎鹿野、四生之艸無

不憚洽法雨於鷲山諸乘之弁並能潤雖言誠黔黎
之福田是蒼生之歸處豈若法界宮中日尊飛輪之
晨自在殿內覺王登極之日啓心藏而賜万有之法
財除妄闢以示一道之理路然乃執色心實相談柄
則六大所遍皆我識身施理智本具言筌則十界所
有悉彼肝膽順此教也不超三劫而立滿三句勳績
告其益也非泛六舟遠濟六趣苦艱語厥溥遍兮三
毘祕咒誇塵滴之惟一言彼攝藏兮一阿密言吞山
海而不億大而又太晒舜若多神也之猶微高而復
高晚寤蘊迷盧之極卑皇矣哉唯佛果地之談邃矣哉

即事而真之門雖一極之逸翮尚未游彼大空雖三
自之雅韻何敢共絕調曰若有一箇縱聖號言大
遍照金剛天降異物阿孃感梵儀之駕雲人稱神童
朝使駭護世之執蓋勃陀入夢八片之荷承跌索多
凝相一團之泥怡顏況又游學儒肆則貫羣籍而過
自成誦念持空藏則歷衆洞而捐軀求就遂則及於
弱冠之年舍塵俗以遵大路邁于而立之日過滄溟
而訪玄珠觀察檢船得片簡則允許存問給糧嚴七
珍斯逐迎天旨垂慈且安置宣陽之坊大使諗歸猶
留止西明之院茲乃尋青龍之真源則洞酌三密之

不_レ憚_二洽_一法雨_ヲ於鷲山_ニ諸乘_ノ之弁並_ニ能_ク潤_ル雖_レ言_ハ誠_ニ黔黎_ノ
之福田_ハ是_レ蒼生_ノ之歸處_{ナリ}豈_ニ若_シ法界宮_ノ中日尊_ノ飛輪_ノ之
晨自在殿_ノ內覺王_ノ登極_ノ之日啓_テ心藏_ヲ而賜_テ万有_ノ之法
財_ヲ除_テ妄闢_ヲ以示_シ中_ニ一道_ノ之理路_ト然_レ乃_チ執_ル色心實相_ヲ談柄_ト
則_レ六大_ノ所_レ遍_ニ皆_レ我_ノ識身_ヲ施_テ理智_ヲ本具_ノ言筌_ヲ則_レ十界_ノ所
有_ニ悉_ス彼_ノ肝膽_ヲ順_テ此_ノ教_ヲ也_レ不_レ超_テ三劫_ヲ而立_テ滿_テ三句_ノ勳績_ヲ
告_テ其益_ヲ也_レ非_レ泛_テ六舟_ヲ遠濟_テ六趣_ノ苦艱_ヲ語_テ厥溥遍_ヲ兮_レ三
毘祕咒_ヲ誇_テ塵滴_ノ之惟一_{ナル}言_ニ彼_ノ攝藏_ヲ兮_レ一阿密言_ヲ吞_テ山
海_ヲ而_レ不_レ億_ス大_ニ而又_レ大_{ナリ}晒_テ舜若多_ノ神也_ノ之猶_レ微_ニ高_ク而_レ復
高_ク晚_ニ寤_ル蘊迷盧_ノ之極_ニ卑_ニ皇_ニ矣哉_レ唯_レ佛果地_ノ之談_ハ邃_ニ矣哉

即事而真之門雖一極之逸翮尚未游彼大空雖三
自之雅韻何敢和其絕調曰若有一箇縱聖號言大
遍照金剛天降異物阿孃感梵儀之駕雲人稱神童
朝使駭護世之執蓋勃陀入夢八片之荷承跌索多
凝相一團之泥怡顏況又游學儒肆則貫羣籍而過
目自成誦念持空藏則歷衆洞而捐軀求就遂則及於
弱冠之年舍塵俗以遵大路邁于而立之日過滄溟
而訪玄珠觀察檢船得片簡則允許存問給糧嚴七
珍斯逐迎天旨垂慈且安置宣陽之坊大使諗歸猶
留止西明之院茲乃尋青龍之真源則洞酌三密之

清流跨白象之淨香。頓盪五障之昏穢。開覺化兮接
普門之法帝。傳心印兮膺遍照之的嗣。雕金玉則地
墨之身智。月圓蓮丹青則山毫之人尊星羅彩鷓遊
灑捆載而歸之者。遮那真教金杵狎雲點著而識者
瑜祇勝岨至若清涼重席列宗名緇咸卷降旗乾臨
禱雨諸弟翹楚或見真龍現生悉地之驗斯時雷震
即身成佛之宗此日獅吼教王護國之寺憶鷲嶺儀
五大忿怒各摧伏一方冤讐真言修法之場衛馬臺
國兩界漫荼更祝禱一載豐稔吾道繁衍一目高祖
之是營此教勝上彰自大師之斯力凡夫攀附條末

清流跨白象之淨香。頓盪五障之昏穢。開覺化兮接
普門之法帝。傳心印兮膺遍照之的嗣。雕金玉則地
墨之身智。月圓蓮丹青則山毫之人尊星羅彩鷓遊
灑捆載而歸之者。遮那真教金杵狎雲點著而識者
瑜祇勝岨至若清涼重席列宗名緇咸卷降旗乾臨
禱雨諸弟翹楚或見真龍現生悉地之驗斯時雷震
即身成佛之宗此日獅吼教王護國之寺憶鷲嶺儀
五大忿怒各摧伏一方冤讐真言修法之場衛馬臺
國兩界漫荼更祝禱一載豐稔吾道繁衍一目高祖
之是營此教勝上彰自大師之斯力凡夫攀附條末

游泳流派之屬鴻德豈不之思。湛恩詎不之酬。讚州
多度郡也者曩祖生緣之地也。是故就彼杓楡創建
梵閣安醫王善逝之尊容。手揮金管寫最勝妙典之
真文。又於歸朝之後重造真言三密之精藍。更刻遍
知七軀之聖像。号之曼荼羅寺。事具寬喜。敕宣自爾
以降。曰元果。曰仁海。僉慕曩躡而練修。或成尊或親
嚴並仰遺蹤。以經行万国望風而歸往。四來繼踵以
被化寄。居則有西行法師寓懷。則有水荃岡詠。雖
屢遷霜露。數遭兵賊。雕甍軒頓成。孤兔之棲。粉牆
玉砌。變為瓦礫之區。武將生駒氏鎮斯國之辰。其家

游泳流派之屬鴻德豈不之思。湛恩詎不之酬。讚州
多度郡也者曩祖生緣之地也。是故就彼杓楡創建
梵閣安醫王善逝之尊容。手揮金管寫最勝妙典之
真文。又於歸朝之後重造真言三密之精藍。更刻遍
知七軀之聖像。号之曼荼羅寺。事具寬喜。敕宣自爾
以降。曰元果。曰仁海。僉慕曩躡而練修。或成尊或親
嚴並仰遺蹤。以經行万国望風而歸往。四來繼踵以
被化寄。居則有西行法師寓懷。則有水荃岡詠。雖
屢遷霜露。數遭兵賊。雕甍軒頓成。孤兔之棲。粉牆
玉砌。變為瓦礫之區。武將生駒氏鎮斯國之辰。其家

三野 覽茲蕪穢不勝悲感界數頃之荒野營三
間之佛宇施腴田而食輪匙轉起禪龕而僧居稍安
即今住持阿遮黎耶有盛不難二万里之煙浪來扣寡
聞之霧心余嘗歷彼境行閱勝槩五嶽南聳擅鍾海
國之秀麗孤城北峙寔為外藩之鎮衛蒼蘚衣封捨
身之崖猶存碧巖鋒聯修法之峯特出鸞梭春織時
和梵唄之餘韻葦機秋促自徐禪坐之睡蓋麀鹿依
叢呦呦之鳴告宵鳥投宿啞啞之音警晨寔靈壤
之為甲也何機才之輒盡焉爰以不負知己無思招
佗譏誇叨錄舊聞以塞厚望云昔延寶辛酉季夏之

三野 覽茲蕪穢不勝悲感界數頃之荒野一當二三
間之仏宇一施腴田而食輪匙一轉起禪龕一而僧居稍安
即今住持阿遮黎耶有盛不難二万里之煙浪一來扣寡
聞之霧心一余嘗歷彼境一行閱勝槩一五嶽南聳一擅鍾海
國之秀麗一孤城北峙一寔為外藩之鎮衛一蒼蘚衣封捨
身之崖猶存一碧巖鋒一聯修法之峯特出一鸞梭春織時
和二梵唄之余韻一葦機秋促一自除禪坐之睡蓋一麀鹿依
叢一呦呦之鳴一告宵鳥一投宿啞啞之音警晨一寔靈壤
之為一甲也一何機才之輒盡一焉爰以不負知己一無思招
佗一譏誇一叨錄一舊聞一以塞一厚望一云時延寶辛酉季夏之

吉稟瑜伽乘教沙門淨嚴欽識

撰州天滿鄉大融寺銅鐘銘

鳧氏心匠幻成奇物非石非播無杵無鬱警入禪聖
激遍界佛冥府迴徹酷患疾其禽魚盪夢龍鬼
聳聰德音無已廣大融通非有實有出空入空蕪斯
玄功遠垂亡窮其二皇祚鞏固帝圖遐昌山砥河帶
地久天長凡厥同志士農工商極夫來際其樂無央
其三

撰州尊鉢里多羅山若王寺緣起

夫性然實際萬象各住其自性雖言觸處皆是悅爾

吉稟瑜伽乘教沙門淨嚴欽識

撰州天滿鄉大融寺銅鐘銘

鳧氏心匠幻成奇物非石非播無杵無鬱警入禪聖
激遍界佛冥府迴徹酷患疾其禽魚盪夢龍鬼
聳聰德音無已廣大融通非有實有出空入空蕪斯
玄功遠垂亡窮其二皇祚鞏固帝圖遐昌山砥河帶
地久天長凡厥同志士農工商極夫來際其樂無央
其三

撰州尊鉢里多羅山若王寺緣起

夫性然實際萬象各住其自性雖言觸處皆是悅爾

妄鄉羣類競取其名相無不歷法悉非計人我而彼
此迴隔煽法執而理智成暗茫遊子跋涉六趣之
原隰慄々愁客繫縛三界之牢獄膠固之則竊猿非
喻巡轉之則磨蟻何比身乃毘盧遮那世尊往昔大
悲之誓願無歇未來無終之哀憐逾深且祕本地之
遍照屢垂迹化之廣濟若入蓮華定門則十方佛利
無利而不現身四身妙應無應而不施益三毒之煩
七難之灾稱念之則除滅四倒之迷五欲之垢觀行
之得解脫若住寶處三昧則為利顯機則暫說百億
部經欲演祕教則遂占第三重門羯磨金剛表成辨

妄鄉ハ群類競テ取其名相ヲ無レニト云コト歴法ニ悉ク非ナラ計ニシテ人我ヲ而彼
此迴隔煽法執ニテ理智成暗茫遊子タル跋涉六趣之
原隰慄々愁客繫縛三界之牢獄膠固之則竊猿非
レ喻ニ巡轉スルコトハ之則磨蟻何ソ比身乃チ毘盧遮那世尊往昔大
悲ノ誓願無歇未來無終之哀憐逾深且祕本地ノ之
遍照屢垂迹化ノ之廣濟若入蓮華定門則十方佛利
無利トシテ而不ト云コト現身四身妙應無應ニ施レト云コト益ヲ三毒之煩
七難ノ之灾稱念スレハ之則除滅シ四倒之迷五欲之垢觀行
之得ニ解脫ヲ若住ニ寶處三昧ニ則為ニ利顯機ヲ則暫ク說ニ百億
部ノ經ヲ欲演レハ祕教ヲ則遂ニ占第三重門ノ羯磨金剛ハ表成辨
スルコトヲ

自利利他之妙業寶鉢多羅標容受世間出世之機
宜是能仁牟尼之教導又觀世薩埵之利濟也曰若
攝州尊鉢里多羅山若王寺也者八幡太神降化之
地行基菩薩草創之攸也初行基師暇日悠然遠望
北嶺奇雲飄颻光色過常基謂豈玄聖之遊化耶將
靈神之窟宅耶迺往而止經宿持念寤夢異人來告
而言我昃譽田天皇之靈也名曰護國靈驗威神大
自在王菩薩我不可計劫來垂迹於三有之中知光
於六道之衢善巧妙權衛世利人無量無邊斯地者
是佛法有緣之靈區也所以爾者曩日神功皇后親

自利利他ノ之妙業寶鉢多羅ハ標ニ容受スルコトヲ世間出世之機
宜ニ能仁牟尼ノ之教導又觀世薩埵ノ之利濟ナリ也曰若
攝州尊鉢里多羅山若王寺ハ也者八幡太神降化之
地行基菩薩草創之攸也初行基師暇日悠然遠望北嶺
北嶺奇雲飄颻光色過常基謂豈玄聖之遊化スルヤ耶將
靈神ノ之窟宅耶迺往而止經宿持念寤夢異人來告
而言我ハ昃譽田天皇ノ之靈ナリ也名曰護國靈驗威神大
自在王菩薩我不可計劫ヨリ來垂迹於三有ノ之中知光
於六道ノ之衢善巧妙權衛世利人無量無邊斯地者
是佛法有緣之靈區也所以爾者曩日神功皇后親

征新羅之時幸得釋迦大師寶鉢而頂戴尊奉於斯處造大石室櫃而藏之亦併寶鏡等之衆物焉汝取以度群迷也行基覺則歡喜拈躍發掘石窟果如所夢後遂達於天聰皇帝敕基使創梵閣殿塔門樓廊廂階陞輪突駭眼基自刻十一面觀自在菩薩像并不動大明王毗沙門天王像各一軀併于佛鉢奉安大殿供養持念以增金輪之威福饒蒼生之利益又請熊野三所之神為永世三寶之鎮衛也寺名若王專本于茲又邑名尊鉢山曰多羅則由佛鉢之在也夫佛鉢所在之方處有無盡之神用則蓮華面

經中佛豫詳說而巡歷諸州遂來于斯豈非吾邦之大幸耶況又寶鉢則釋迦佛之三昧耶身也寶鉢所在則與如來現在之不異有意智者孰敢外之雖然時世改變風俗澆漓象教陵夷殿閣頽毀剝遭天兵際亂兵數行寶貝多見劫奪齋田盡所取掠唯餘寺院四至之境耳又文祿年中官使檢田之時僧藍之地皆為公田悉課貢稅釋迦院主某甲嗟佛光之匿耀慨福庭之就荒弃古昔之地卜東山之足繼將絕之緒興殆廢之事云寔惟大聖世尊之教未殄觀在大士之益猶存時運若余何法燈之不重輝于世

征新羅之時幸得釋迦大師寶鉢而頂戴尊奉於斯處造大石室櫃而藏之亦併寶鏡等之衆物焉汝取以度群迷也行基覺則歡喜拈躍發掘石窟果如所夢後遂達於天聰皇帝敕基使創梵閣殿塔門樓廊廂階陞輪突駭眼基自刻十一面觀自在菩薩像并不動大明王毘沙門天王像各一軀併于佛鉢奉安大殿供養持念以增金輪之威福饒蒼生之利益又請熊野三所之神為永世三寶之鎮衛也寺名若王專本于茲又邑名尊鉢山曰多羅則由佛鉢之在也夫佛鉢所在之方處有無盡之神用則蓮華面

經中佛豫詳說而巡歷諸州遂來于斯豈非吾邦之大幸耶況又寶鉢則釋迦佛之三昧耶身也寶鉢所在則與如來現在之不異有意智者孰敢外之雖然時世改變風俗澆漓象教陵夷殿閣頽毀剝遭天正之際亂兵數行寶貝多見劫奪齋田盡所取掠唯餘寺院四至之境耳又文祿年中官使檢田之時僧藍之地皆為公田悉課貢稅釋迦院主某甲嗟佛光之匿耀慨福庭之就荒弃古昔之地卜東山之足繼將絕之緒興殆廢之事云寔惟大聖世尊之教未殄觀在大士之益猶存時運若余何法燈之不重輝于世

俗或變豈佛鉢之不再彰于乎哉今歎舊籍之遺其
燹且錄先志之所曾傳昔延寶九稔歲舍辛酉冬十
月之吉

天和二千戌年行年四十四

讚州出釋迦峯虛空藏堂助緣緇素名簿序

原夫斯峯也則能寂世尊隨感應現之靈嶽遍照金
剛捨身練行之勝場也是故空藏如意之益十方周
瞻即獲聞持之利千載之下永傳雖余特運不齊寺

像或有興替教風稍廢士庶少有歸信蘇蘇殿堂頽
毀風雪丘陵尊軀損壞彩飾盡削貧道三界無家況
有僮石之儲一鉢常匱唯吹錢囊塵塵雖希興造却慨
不及於果遍扣四遠之都鄙博乞万人之資助營一
宇之小殿奉万德之薩埵然乃晨昏香燈長時不絕
日夕禪誦永世無懈縱不修念何無自業自得之善
果況有迴向誰疑華報果報之鉅益乃至士農工商
齊飲鏤乳之珍珠鱗蹄角牙同遊阿閻之寶臺矣天
和二年龍集壬戌春三月廿一日

高野山寶性院第十九世朝遍法印行狀

俗或變豈佛鉢之不再彰于乎哉今歎舊籍之遺其
燹且錄先志之所曾傳昔延寶九稔歲舍辛酉冬十
月之吉

天和二千戌年行年四十四

讚州出釋迦峯虛空藏堂助緣緇素名簿序

原夫斯峯也則能寂世尊隨感應現之靈嶽遍照金
剛捨身練行之勝場也是故空藏如意之益十方周
瞻即獲聞持之利千載之下永傳雖余特運不齊寺

像或有興替教風稍廢士庶少有歸信蘇蘇殿堂頽
毀風雪丘陵尊軀損壞彩飾盡削貧道三界無家況
有僮石之儲一鉢常匱唯吹錢囊塵塵雖希興造却慨
不及於果遍扣四遠之都鄙博乞万人之資助營一
宇之小殿奉万德之薩埵然乃晨昏香燈長時不絕
日夕禪誦永世無懈縱不修念何無自業自得之善
果況有迴向誰疑華報果報之鉅益乃至士農工商
齊飲鏤乳之珍珠鱗蹄角牙同遊阿閻之寶臺矣天
和二年龍集壬戌春三月廿一日

高野山寶性院第十九世朝遍法印行狀

第二百四十七代檢校執行法印大和尚位朝遍攝
州大坂人也父讚州久保氏母城州竹内氏

後陽成皇帝慶長元年丙申春二月十五辰時而生
神相岐巖天機穎脫同十一年父枉遭讒害因而避
難于斯山謁朝印闍黎寶龜院時住于之講筵印一見則領
之明年之春許以祝髮授以禁戒自來力習密乘焚
膏繼後受榮雄闍黎之委附住釋迦文院自寬永
之初當山承仕号行不惠シタカ寺務之嚴命無肯僧統之
制令驕奢日積風範月替至明曆丙申之冬寺僧與
承仕爭掌鎮守神祠之戶鑰之事而訟公庭遂使万

治戊戌之秋幕下降命擯学徒之四傑罪堂衆之四
凶於是衆推遍師與長榮高室院主使赴武府師屢造于
寺社總管井上氏板倉氏兩使傾竭肝膽同庚子之
夏有旨使遍師住寶性院榮師住無量壽院以為滿
寺僧錄司号之時兩刺史新制九條之禁法折サツ鷓蚌
之獄其目皆輕蔑舊則以薪加火遍師為凶後害不
顧危難者覆陳編愁愬古法兩使君稍納之寬文二
年與承仕對論公府彼之所陳一事不立如是數回
同三年冬幕下降于台旨定於規式凡兩章三十六
條盡遵舊章是偏遍師用力之所致也同六年十月

第二百四十七代檢校執行法印大和尚位朝遍ハ撰

州大坂人也父讚州久保氏母城州竹内氏

後陽成皇帝慶長元年丙申春二月十五辰時而生
神相岐巖天機穎脫同十一年父枉遭讒害因而避
難于斯山謁朝印闍黎寶龜院時住于之講筵印一見則領
之明年之春許以祝髮授以禁戒自來力習密乘焚
膏繼後受榮雄闍黎之委附住釋迦文院自寬永
之初當山承仕号行不惠シタカ寺務之嚴命無肯僧統之
制令驕奢日積風範月替至明曆丙申之冬寺僧與
承仕爭掌鎮守神祠之戶鑰之事而訟公庭遂使万

治戊戌之秋幕下降命擯学徒之四傑罪堂衆之四

凶於是衆推遍師與長榮高室院主使赴武府師屢造于

寺社總管井上氏板倉氏兩使傾竭肝膽同庚子之

夏有旨使遍師住寶性院榮師住無量壽院以為滿

寺僧錄司号之時兩刺史新制九條之禁法折サツ鷓蚌

之獄其目皆輕蔑舊則以薪加火遍師為凶後害不

顧危難者覆陳編愁愬古法兩使君稍納之寬文二

年與承仕對論公府彼之所陳一事不立如是數回

同三年冬幕下降于台旨定於規式凡兩章三十六

條盡遵舊章是偏遍師用力之所致也同六年十月

受寺務職同九年十一月辭職明年庚戌正月以老且病退讓僧錄司于信龍閣黎辛亥正月二十六日恬然而化壽七十六歲

讚州鶴足郡万恒寺銅鐘銘并叙

粵有勝區名曰佛光青嶂背聳松濤混午鼎之吟玄溟右湛漁謳和夕梵之韻長川奔其足蒼龍之勢彰祕水之綿焉永洽孤城鎮其節鐵甕之固示法壑之確乎不拔万恒嘉名早立傳上乘之燈于季葉八幡靈神如在施湛恩之澤于兆民况復時遇明君之傾心佛乘竭誠神明幸得黎下之展忱檀信聽教師

友山前土器之鄉有一信士姓田村諱易全久信即成佛之教門素飲大菩薩之德光常憤華鯨之不告寅夕且念潮音之周警蠢動是故新成鉅鐘銘以密言告夫羣眠極其極楚復欲迴斯不盡之利以祝國君之壽福并資先考本源淨清先妣桂林壽香之覺道也任持闍黎宥仙不難險遠來扣華局苦需銘詞不得敢睽倉卒信毫其辭曰於鬱扶桑佛日云升教禪俱宣顯秘競興就中有灼遮那上乘累祖瀉瓶奕世繼燈其量明君綱紀風行草偃掃蕩頽俗信能增韻法泉洶湧厥流哀々遐邇懷德投歸忘反其貳

受寺務職同九年十一月辭職明年庚戌正月以老且病退讓僧錄司于信龍閣黎辛亥正月二十六日恬然而化壽七十六歲

讚州鶴足郡万恒寺銅鐘銘并叙

粵有勝區名曰佛光青嶂背聳松濤混午鼎之吟玄溟右湛漁謳和夕梵之韻長川奔其足蒼龍之勢彰祕水之綿焉永洽孤城鎮其胸鐵甕之固示法壑之確乎不拔万恒嘉名早立傳上乘之燈于季葉八幡靈神如在施湛恩之澤于兆民况復時遇明君之傾心佛乘竭誠神明幸得黎下之展忱檀信聽教師

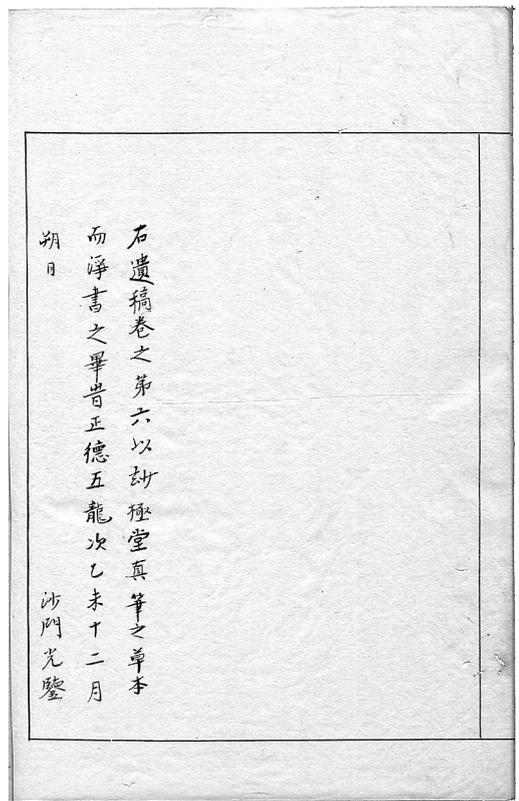
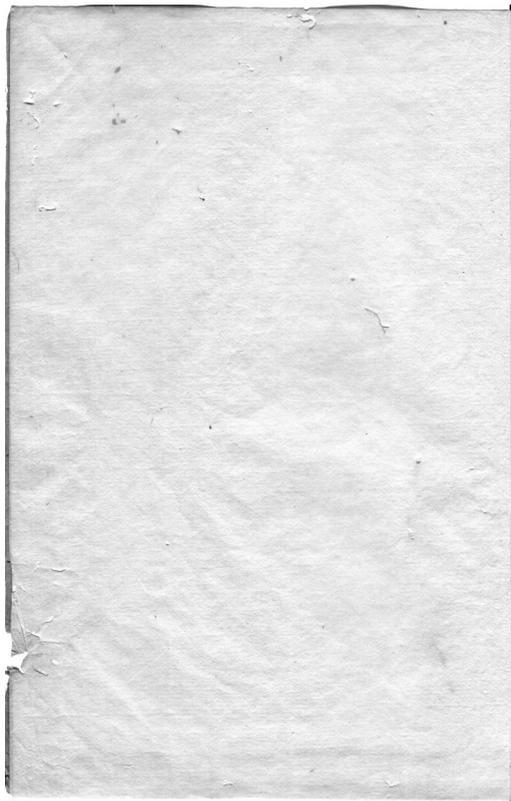
友山前土器之鄉有一信士姓田村諱易全久信即成佛之教門素飲大菩薩之德光常憤華鯨之不告寅夕且念潮音之周警蠢動是故新成鉅鐘銘以密言告夫羣眠極其極楚復欲迴斯不盡之利以祝國君之壽福并資先考本源淨清先妣桂林壽香之覺道也任持闍黎宥仙不難險遠來扣華局苦需銘詞不得敢睽倉卒信毫其辭曰於鬱扶桑佛日云升教禪俱宣顯秘競興就中有灼遮那上乘累祖瀉瓶奕世繼燈其量明君綱紀風行草偃掃蕩頽俗信能增韻法泉洶湧厥流哀々遐邇懷德投歸忘反其貳

突兀倉嶺東構北折神界福祿佛濟煩熱祠壇重歲
 繡栢藻檉僧居邁埃雪清玉澤其參蒲牢絕韻無由
 攬眠雅士抱素執信石堅冶氏範就神呪響傳仰報
 鴻德俯拔倒懸其四蕩々鉅益周無告地墨何盡
 山毫豈錄佛光神常明常燭衛爾候王旁羣臣僕
 其五昔天和二歲在壬戌中冬廿有三沙門淨嚴
 播州印南郡平庄報恩寺之記

場又加不動金剛多聞天王

突兀ツツ倉嶺東ニ構ヘ北ニ折ク神界ニ福祿ニ佛濟ニ煩熱ニ祠壇重シ歲ヲ
 繡スヒモ栢藻ノ檉ト僧居ケル邁アリ埃雪コヘ清ク玉ノ澤ノ其參シ蒲牢シ絕シ韻シ無シ由シ
 攬ミタ眠ニ雅士ニ抱素ヲ執ル信ヲ石ノ堅ク冶氏ノ範カ就リ神呪キ響キ傳フ仰報ヒ
 鴻德ヲ俯シ拔ク倒懸ヲ其四ニ蕩々タル鉅益ヲ周ニ無告ニ地墨モ何盡サン
 山毫ニ豈シ錄シ佛光ヲ神常ニ明ニ常ニ燭ニ衛爾ヲ候王ヲ旁ニ羣臣ニ僕ニ
 其五ニ昔天和ニ二歲ニ在ニ壬戌ニ中冬ニ廿有三ニ沙門淨嚴ニ
 播州印南ノ郡平ノ庄報恩寺ノ之記

場ト又加ヘテ不動金剛多聞天王ト



右遺稿卷之第六以妙極堂真筆之草本
而淨書之畢時正德五龍次乙未十二月
朔日
沙門光鑒

(白丁)

「⑥裏表紙見返

「⑥44ウ



「⑥裏表紙

(てらつ まりえ 生活機構研究科生活文化研究専攻修了生)
(せきぐち しずお 歴史文化学科)